

令和2(2020)年度第1回水工学委員会および幹事会

日時：令和2年6月4日(木) 14:00～16:00

場所：zoom

0. 清水委員長挨拶

《報告事項》

1. 令和1-2年度水工学委員会構成と年間スケジュール(幹事長) 資料1 p.1
2. 令和2年度水工学に関する夏期研修会の延期について(高知, 幹事長) 資料2 p.5
3. 水シンポジウム2020inぐんまの延期について(幹事長) 資料3 p.7
4. 部会・小委員会・関連委員会の活動報告及び活動計画 資料4 p.11
 - ▶部会：水文部会(田中賢委員, 資料4-1)
河川部会(渡邊委員, 資料4-2)
基礎水理部会(杉原委員, 資料4-3)
環境水理部会(矢野委員, 資料4-4)
 - ▶小委員会：水害対策小委員会(赤松委員, 資料4-5)
流量観測高度化小委員会(椿委員, 資料4-6)
河道管理小委員会(田中規委員・戸田委員, 資料4-7)
グローバル気候変動適応研究推進小委員会), ISO/TC113小委員会
 - ▶関連委員会：IAHR Japan Chapter, IAHR-APD2020札幌(田中規委員・川村委員, 資料4-8)
河川懇談会(道奥座長欠席(代理 清水委員長), 資料4-9)
CommonMP, 流域管理と地域計画の連携, 水理公式集編集小委員会, 土木学会論文集編集委員会, 減災・防災委員会, 海岸, 沿岸域気候変動, 沿環連, 地球環境, 環境システム, ISO対応, 出版委員会
5. 水工学委員会の活動度評価(幹事長) 資料5 p.45
6. その他
 - ・インフラメンテナンス総合委員会委員選出(戸田委員), 日中シンポジウム(梅田委員, 矢野委員)

《協議事項》

1. 令和2年度第65回水工学論文集査読スケジュール・編集作業(鼎編集幹事長) 協議資料1 p.1
2. 令和2年度以降の水工学講演会の開催について(手計委員, 森脇委員, 幹事長) 協議資料2 p.8
3. 水工学オンラインWG立上げ, 水工学オンライン連続講演会の開催(幹事長, 溝口委員) 協議資料3 p.19
4. 令和4年度水シンポジウム2022inやまがた(幹事長, 風間委員) 協議資料4 p.21
5. 第25回水シンポジウム2021inぐんまの実施体制(幹事長) 協議資料5 p.24
6. 水理公式集例題集編集小委員会の立上げの提案(清水委員長) 協議資料6 p.25
7. R2年度第二回水工学委員会の委員長選挙方法(幹事長) 協議資料7 p.29
8. 令和2年度の水工学委員会の予算について(幹事長) 協議資料8 p.31
9. 副委員長の役割(幹事長) 協議資料9 p.35
10. その他

○水工学論文賞選考委員会報告（鼎編集幹事長）

1. 令和元年度水工学論文賞，同奨励賞候補論文について
2. その他

審議事項

新規

2019-2020 水工学委員会 (2020/6/4現在)

清水 義彦 委員長

二瓶 泰雄 幹事長

ホームページ担当
重枝 未玲 委員

水工ML担当
梅田 信 委員
川村 里実 委員

水工学委員会・
土木計画学委員会
流域管理と地域計画の
連携方策研究小委員会
立川 康人 座長

水工オンラインWG
溝口 敦子 委員
入江 政安 委員
内田 龍彦 委員
佐山 敬洋 委員

- 企画研究委員会
- 出版委員会
宮本 仁志 委員
- 土木学会論文集編集委員会
(集編集調整会議)
内田 龍彦 幹事長
鼎 信次郎 委員
- B部門合同編集小委員会
(通常号)
横木 裕宗 委員長
鳴原 良典 幹事長
稲垣 厚至 幹事
瀬戸 心太 委員
横嶋 哲 委員
椿 涼太 委員
吉川 泰弘 委員
本田 隆英 委員
鈴木 崇之 委員
- 減災・防災委員会
田中 茂信 委員
(水害対策小委員会委員長)
- 緊急対応マネジメント小委員会
岡田 将司 委員
(水害対策小委員会幹事長)
- インフラメンテナンス
総合委員会
- 健康診断小委員会
戸田 祐嗣 幹事
- 知の体系化小委員会
戸田 祐嗣 委員

河川懇談会
道奥 康治 座長
二瓶 泰雄 幹事長

国土交通省
水管理・国土保全局
都市局
産業界

国土交通省
水管理・国土保全局

部会
水文部会
田中 賢治 部会長

基礎水理部会
杉原 裕司 部会長

環境水理部会
矢野 真一郎 部会長

河川部会
渡邊 明英 部会長

研究小委員会
流量観測技術高度化
研究小委員会
椿 涼太 委員長

グローバル気候変動
研究推進小委員会
中山 恵介 委員長
小林 健一郎 幹事長

河道管理研究小委員会
田中 規夫 委員長
戸田 祐嗣 幹事長

常置小委員会
水工学論文集
編集小委員会
鼎 信次郎 幹事長

水害対策小委員会
田中 茂信 委員長
岡田 将司 幹事長

水理公式集
編集小委員会
清水 義彦 委員長
二瓶 泰雄 幹事長

水理公式集例題集
編集小委員会
泉 典洋 委員長

ISO/TC113小委員会
深見 和彦 委員長

水工学講演会
2019 (第64回・埼玉) 田中 規夫 委員
2021 (第66回・富山) 手計 太一 委員
2022 (第67回・愛媛) 森脇 亮 委員

水シンポジウム
2021 (第25回・群馬) 清水 義彦 委員長
2022 (第26回・山形) 風間 聡 委員

水工学に関する夏期研修会
2019 (第55回・愛知) 戸田 祐嗣 委員
2021 (第56回・高知) 高知 大・張 先生
(森脇 亮 委員)

沿岸環境関連学会
連絡協議会
横山 勝英 委員

沿岸域の気候変動影響
評価・適応検討に
関する小委員会
小林 健一郎 委員
(グローバル気候変動
研究推進小委員会)

地球環境委員会
中山 恵介 委員
(グローバル気候変動
研究推進小委員会
委員長)

海岸工学委員会
入江 政安 委員

環境システム委員会
矢野 真一郎 委員
(環境水理部会長)

ISO対応特別委員会
堀田 哲夫 委員

CommonMP開発・
運営コンソーシアム
山田 正 委員長
風間 聡 幹事長

赤字：不明

水工学委員会年間予定表(2020-)

		当初予定	対応	変更後
2020年	3月	3/18 基礎水理シンポ	延期	時期未定
	4月	4月? 流量合同観測	中止	
	5月	5/29 水工学論文集締切	延期	
	6月	6/4 R2年度第一回水工学委員会	オンライン	6/4R2年度第一回水工学委員会
		6/10-11 河川シンポ	中止	
				6/30水工学論文集締切
	7月	7/2-3 環境水理部会研究集会in久慈川	延期	秋以降
	8月	8/27-28 水工学に関する夏期研修会in高知	延期	1年後
	9月	9/9-11 全国大会in名工大	オンライン	9/9-11全国大会
		9/14-17 IAHR-APDin札幌	オンライン	9/15-16IAHR-APD
	11月	11/4-6 第65回水工学講演会in富山	審議(オンライン?)	
		11/4 R2年度第二回水工学委員会	審議(オンライン?)	
		11/12-13 第25回水シンポin群馬	延期予定	
12月	12/9 流域管理小委員会WS	未定		
2021年	5月	5/29 水工学論文集締切	予定通り	
	6月	6月? R3年度第一回水工学委員会	予定通り	
	7月	7月 第26回水シンポin山形	延期	1年後
	8月			8月? 水工学に関する夏期研修会in高知
				8/26-27 第25回水シンポin群馬
	11月	11/5-7第66回水工学講演会in愛媛	検討中	
	12月			12月第66回水工学講演会in富山
2022年	7月			第26回水シンポin山形(時期未定)
	11月			11月? 第67回水工学講演会in愛媛

委員構成				R1-2		本委員会 &編集小	小委員会								部会			
NO.	氏名	所属	役職, 担当	種類	幹事		水害	グローバル	河道	流量	流域	COMMON	土論B	IAHR	公式集	水文	基礎	環境
1	清水 義彦	群馬大	委員長	専門		委員長	才			○				幹事長				元部会長
2	二瓶 泰雄	理科大	幹事長	専門		幹事長	幹事	○						主査			元部会長	
3	鼎 信次郎	東工大	編集幹事長	専門		編幹						委員			○			
4	竹林 洋史	京大防災研	前幹事長	近畿	○	前幹事長	元幹事長		○								副部会長	
5	宮本 仁志	芝浦工大	前編集幹事長, 出版委員会委員	専門	○	前編幹		○	○								元部会長	
6	田中賢治	京大	水文部会部会長	専門	○										部会長			
7	杉原 裕司	九州大	基礎水理部会部会長	西部												部会長		
8	矢野 真一郎	九州大	環境水理部会部会長	専門	○		幹事	元委員長									部会長	
9	渡邊 明英	東京建設コンサルタント	河川部会部会長	専門														部会長
10	椿 涼太	名古屋大	流量観測高度化研究小委員会委員長	専門	○					委員長						○		○
11	田中茂信	京大防災研	水害対策小委員会委員長	専門	○		委員長											
12	中山 恵介	神戸大	グローバル小委員会委員長	近畿	○	元幹事長		委員長									○	
13	田中 規夫	埼玉大	河道管理研究小委員会委員長/IAHR Japan chapter副支部長	専門	○				委員長		○		副支部長			○		
14	内田 龍彦	広島大	土木学会論文集編集調整会議幹事長, 水工オンラインWG	専門				○	○			幹事長				○		副部会長
15	赤松良久	山口大	土木学会論文集B部門幹事	専門	○		前幹事長	○	○			前幹事長					○	
16	立川 康人	京大	流域管理と地域計画の連携方策研究委員会座長	近畿	○	元幹事長				座長	部会長			幹事				
17	風間 聡	東北大	COMMON MP幹事長/水シンボ2022山形担当	専門	○		前委員長				幹事長				元部会長			
18	泉 典洋	北大	水理公式集例題集編集小委員会委員長	専門	○		才					前委員長		幹事		○		元部会長
19	手計 太一	富山県立大	2020年水工学講演会担当	専門					○			○			○			
20	溝口 敦子	名城大	水工オンラインWG	専門				○	○							○		○
21	佐山 敬洋	京大防災研	水工オンラインWG	専門			幹事	○							○			
22	山田 朋人	北大		北海道	○			○							○			
23	川村 里実	寒地土木研究所	水工ML担当	北海道			幹事										○	
24	梅田信	東北大	水工ML担当	東北	○												○	
25	川越 清樹	福島大		東北			幹事								才			
26	芳村 圭	東大		関東											○			
27	知花 武佳	東大		関東		元編幹								幹事				○

令和2年度水工学に関する夏期研修会

<当初案>

開催期間: 令和2年8月27日(木)ー28日(金)

開催場所: 高知市商工会館(予約済み)

<http://kochi-syokokaikan.arrow.jp/>

募集人数: 各コース150名

<担当>

水工学: 高知大学張浩先生、高知高専岡田将治先生

海岸工学: 徳島大学山中亮一先生

令和2年度水工学に関する夏期研修会 延期の経緯

4/13 高知大学・張先生とオンライン打合せ

→通常開催は難しい. 執行部で判断してほしいと依頼.

4/14-16 海岸工学委員会執行部とメール審議

→1年延期と判断

4/17 張先生に連絡, 了承.

第25回 水シンポジウム2020inぐんま

<当初案>

開催期間：令和2年11月12日（木）－13日（金）

開催場所：Gメッセ群馬（予約済み）

担当：水工学委員会（水文部会），群馬県，関東地整，水資源機構

「第25回 水シンポジウム 2020 in ぐんま」
メインテーマ（案）

利根川水源県ぐんまからの発信
～歴史、文化、自然の恵みを未来へつなぐために～

「第25回 水シンポジウム2020 in ぐんま」実行委員会等名簿（案）

別表1 実行委員会（○実行委員長）

	機関名	役職名	氏名	備考1	備考2
○	土木学会水工学委員会	委員長	清水 義彦	群馬大学	
	関東地方整備局河川部	部長	佐藤 寿延		
	群馬県県土整備部	部長	岩下 勝則		
	高崎市建設部	部長	宮石 修		
	土木学会水工学委員会	幹事長	二瓶 泰雄 ※1	東京理科大学	
	土木学会水工学委員会	委員	平川 隆一	前橋工科大学	
	土木学会水工学委員会	委員	永野 博之	群馬高専	
	関東地方整備局高崎河川国道事務所	所長	福井 貴規		
	関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所	所長	小宮 秀樹		
	独立行政法人水資源機構	関東事業室長	木下 昌樹		
	独立行政法人水資源機構沼田総合管理所	所長	小坪 洋巳		

※1 企画部会を兼務

※2 委員がやむを得ない事由により欠席する場合、その委員がその所属する団体や会の役員等の中から代理人を定め、その者を代理人として出席させることができることとする。

別表2 企画部会（○企画部会長）

	機関名	役職名	氏名	備考1	備考2
○	土木学会 水工学委員会	幹事長	二瓶 泰雄	東京理科大学	
	土木学会 水工学委員会	水文部会長	田中 賢治	京都大学	
	土木学会 水工学委員会	委員	芳村 圭	東京大学	
	土木学会 水工学委員会	委員	平林 由希子	芝浦工業大学	
	関東地方整備局河川部	河川計画課長	渡邊 加奈		
	関東地方整備局高崎河川国道事務所	副所長	宮崎 勝巳		
	関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所	副所長	上岡 友幸		
	群馬県県土整備部	参事兼河川課長	西澤 洋行		
	高崎市建設部土木課	課長	牧野 宏之		
	独立行政法人水資源機構ダム事業部	ダム管理課長	花田 弘幸		
	独立行政法人水資源機構沼田総合管理所	副所長	小林 真幸		

水シンポジウム2020inぐんま 延期(予定)

5/20 群馬県・水工学委員会(清水先生, 二瓶)のオンライン打合せ

→通常開催は難しい. 1年延期で進めることで合意.

5/21以降 実行委員, 企画部会委員にメール等で連絡

(現在 書面での最終確認中)

<延期案>

開催期間: 2021年8月26日(木), 27日(金)

開催場所: Gメッセ群馬

体制: 実行委員長は清水先生に継続してもらいたい(要審議)

水文部会構成

- 部会長
 - 田中賢治(京都大学)
- 副部会長
 - 鼎先生(東京工業大学)
- 河川部会連携委員
 - 吳先生(富山県立大学)
 - 仲吉先生(東京理科大学)
- 地球環境委員会委員
 - 佐山先生(京都大学)

水文部会2019年度報告

- 水文研究集会 **報告済**

日時: 2019年10月31日～11月1日

場所: あしぎぬ大雲の里 大雲塾舎

現地見学: 由良川中流部

(内水対策、宅地嵩上げ、築堤、排水機場等)

参加者20名



- 第1回水文部会

日時: 11月5日(火) 13:00～14:00

場所: 大宮ソニックシティ 会議室702

参加者28名

- 水文部会ホームページ更新

水文部会2020年度活動予定

- 水文研究集会（未定）
- 第1回水文部会 2020年11月4日～6日
—水工学講演会期間中
- 水シンポジウム2020in群馬 (延期?)
企画部会: 田中賢治、平林由紀子、芳村圭
第1分科会 テーマ: 防災・減災(治水・利水)

<趣旨>

今後気候変動の進行に伴い洪水・渇水現象がさらに激化・長期化し、水管理施設の能力を超える状況がこれまで以上に発生することが予想される。我が国最大の人口を抱える利根川上流のダム群が有する治水・利水機能やこれまで果たしてきた役割を整理するとともに、今後気候変動が進行する中でその機能が十分か、役割がどう変化するかについて議論し提言する。

河川部会報告

構成

部会長	渡邊明英(東京建設コンサルタント)
副部会長	諏訪義雄(国土政策総合研究所)
同	田村浩敏(建設技術研究所)
同	内田龍彦(広島大学大学院)
部会員	総計 33名 / 事務局 3名

R1～R2年度の主な活動

- 2020年度第一回河川部会 (9/24:2019年度シンポジウム総括及び2020年度シンポジウムの企画案等について, 11/5臨時)
- 2020年度第二回河川部会(2/26:アブストラクト査読, 論文賞選定)
- 2020年度第三回河川部会メール会議(メール審議:2020年度河川シンポジウムの開催中止と論文集の発刊について, 本論文査読, 編集委員会 etc.)
- 河川技術シンポジウム(6/10-6/11)の中止決定
- 技術論文集の発刊(コロナによる修正遅れで6月中旬以降の見込)

河川部会員名簿

(2020年4月1日付)

No.		氏名	分類
1	部会長	渡邊 明英	民
2	副部会長	諏訪 義雄	官
3	副部会長	田村 浩敏	民
4	副部会長	内田 龍彦	学
5	委員	尾松 智	官
6		吉川 泰弘	学
7		陰山 建太郎	民
8		大澤 範一	民
9		舟橋 弥生	官
10		尾花 まき子	学
11		川池 健司	学
12		金澤 裕勝	官
13		呉 修一	学
14		矢崎 剛吉	官
15		平山 大輔	官
16		太田 一行	民
17		黒澤 祥一	民

No.		氏名	分類
18		新清 晃	民
19		岩下 友也	官
20		目黒 嗣樹	官
21		田端 幸輔	学
22		知花 武佳	学
23		椿 涼太	学
24		仲吉 信人	学
25		福島 雅紀	官
26		岡安 徹也	官
27		吉田 邦伸	官
28		堀江 克也	民
29		桑原 正人	民
30		本田 隆英	民
31		松本 健作	学
32		溝口 敦子	学
33		原田 守啓	学

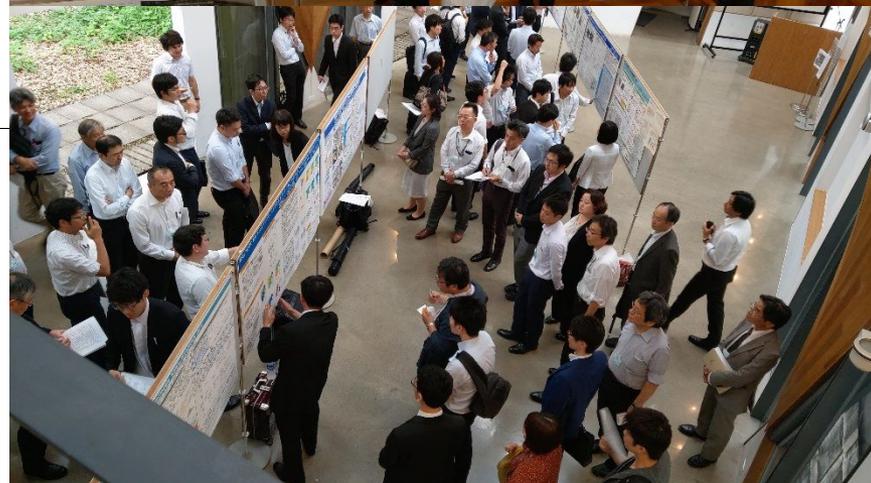
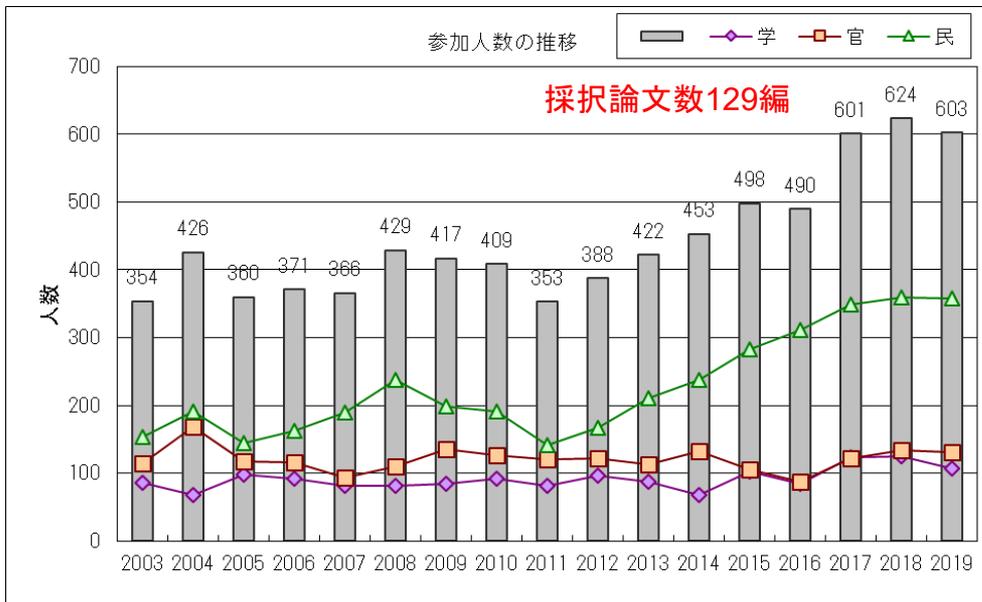
民:10名 学:12名 官:11名 (合計33名)

(2020年度 河川技術論文集 外部編集委員
地盤工学委員会 堤防小委員会より 10名)

2019年度 河川技術に関するシンポジウム

(1)日 時: 2019年6月12日(水), 13日(木)

(2)会 場: 東京大学農学部弥生講堂・アネックスセイホクギャラリー



河川技術論文集25巻(2019年度)の 河川技術論文賞

西村 柁哉(名古屋工業大学大学院 社会工学専攻)・

前田 健一・高辻 理人・牧 洋平・泉 典洋

「実堤防の調査結果に基づいた河川堤防のパイピング危険度の力学的点検フローの提案」

(第26巻2020年度 本論文 採択数114(5/21現在の予定)/
投稿数130)

基礎水理部会 活動報告

2020年度第1回土木学会水工学委員会

2020年6月4日

オンライン会議

基礎水理部会WebサイトURL

<http://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/kisosuiri/index.html>

土木学会 水工学委員会 基礎水理部会 名簿(2020.05.22現在)

個人情報を含みますので、取り扱いにはご注意ください。

	氏名	所属	email
1 部会長	杉原 裕司	九州大学 大学院総合理工学研究院 環境理工学部門	sugihara.yuji.290@m.kyushu-u.ac.jp
2 副部会長	田中 規夫	埼玉大学 理工学研究科 環境システム工学専攻	tanaka01@mail.saitama-u.ac.jp
3 幹事	山上 路生	京都大学 工学研究科 社会基盤工学専攻	michio.sanjou@water.kuciv.kyoto-u.ac.jp
4	赤穂 良輔	岡山大学 大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻	akoh@okayama-u.ac.jp
5	泉 典洋	北海道大学 工学研究科 環境フィールド工学専攻	nizumi@eng.hokudai.ac.jp
6	井上 卓也	土木研究所 寒地土木研究所	inoue-t@ceri.go.jp
7	岩崎 理樹	北海道大学 工学研究院 土木工学部門	tiwasaki@eng.hokudai.ac.jp
8	鵜崎 賢一	群馬大学 理工学府 環境創生部門	k-uzaki@gunma-u.ac.jp
9	内田 龍彦	広島大学 大学院先進理工系科学研究科 社会基盤環境工学プログラム	utida@hiroshima-u.ac.jp
10	岡本 隆明	京都大学 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻	okamoto.takaaki.8x@kyoto-u.ac.jp
11	鬼束 幸樹	九州工業大学 工学部 建設社会工学科	onitsuka@civil.kyutech.ac.jp
12	音田 慎一郎	京都大学 工学研究科 都市社会工学専攻	onda.shinichiro.2c@kyoto-u.ac.jp
13	門田 章宏	愛媛大学 工学研究科 生産環境工学専攻	akado@cee.ehime-u.ac.jp
14	高岡 広樹	八千代エンジニアリング 九州支店	hr-takaoka@yachiyo-eng.co.jp
15	高橋 正行	日本大学 理工学部 土木工学科	takahashi.masayuki@nihon-u.ac.jp
16	高濱 淳一郎	京都府立大学 生命環境学部 森林科学科	jtaka@kpu.ac.jp
17	張 浩	高知大学 教育研究部 自然科学系	zhang@kochi-u.ac.jp
18	椿 涼太	名古屋大学 大学院工学研究科 土木工学専攻	rtsubaki@civil.nagoya-u.ac.jp
19	永野 博之	群馬高専 環境都市工学科	hr-nagano@gunma-ct.ac.jp
20	原田 守啓	岐阜大学 流域圏科学研究センター	m-harada@green.gifu-u.ac.jp
21	久末 信幸	関西電力 技術研究所	hisasue.nobuyuki@c4.kepco.co.jp
22	平松 裕基	土木研究所 寒地土木研究所	hiramatsu-y@ceri.go.jp
23	溝口 敦子	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科	atsu@meijo-u.ac.jp
24	横嶋 哲	静岡大学 学術院工学領域 数理システム工学系列	yokojima@shizuoka.ac.jp
25	吉田 圭介	岡山大学 環境生命科学研究科	yoshida.k@okayama-u.ac.jp
26			
27			
28			
29			
30			
31 アドバイザー	朝位 孝二	山口大学 大学院創成科学研究科	kido@yamaguchi-u.ac.jp
32 アドバイザー	大本 照憲	熊本大学 自然科学研究科 社会環境工学専攻	ohmoto@kumamoto-u.ac.jp
33 アドバイザー	神田 佳一	明石工業高専 都市システム工学科	kanda@akashi.ac.jp
34 アドバイザー	木村 一郎	富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科	ichiro@sus.u-toyama.ac.jp
35 アドバイザー	里深 好文	立命館大学 理工学部 環境都市工学科	satofuka@se.ritsumei.ac.jp
36 アドバイザー	関根 正人	早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科	sekine@waseda.jp
37 アドバイザー	富永 晃宏	名古屋工業大学 工学研究科 社会工学専攻	tominaga.akihiro@nitech.ac.jp
38 アドバイザー	仲座 栄三	琉球大学 工学部 工学科 社会基盤デザインコース	enakaza@tec.u-ryukyu.ac.jp
39 アドバイザー	羽田野 袈裟義	九州産業大学 建築都市工学部 都市基盤デザイン工学科	hadano@ip.kyusan-u.ac.jp
40 アドバイザー	藤田 一郎	一般財団法人 建設工学研究所	ifujita@kobe-u.ac.jp
41 アドバイザー	前野 詩朗	岡山大学 環境生命科学研究科	maeno@cc.okayama-u.ac.jp

基礎水理シンポジウム2019は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を延期させて頂くことになりました。

新たな開催時期につきましては、現時点では未定であり、改めてご案内させて頂く予定です。

事前の参加登録数は120超



基礎水理シンポジウム 2019

「破堤の水理—洪水氾濫のメカニズム解明とその対策に向けて—」

主催：公益社団法人 土木学会 水工学委員会 基礎水理部会

日時：2020年3月18日(水) 10:30-17:20

会場：土木学会 講堂（東京都新宿区四谷一丁目 外濠公園内）

<http://www.jsce.or.jp/contact/map.shtml>

定員：120名 CPD 単位：5.0 単位（認定番号: JSCE19-1576）

参加方法：事前 Web 申込（<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>） + 当日受付（空きがあれば）

参加料：無料

プログラム：

10:30-10:40（開会挨拶） 杉原裕司（九州大学教授、部会長）

10:40-11:20 講演 1 音田慎一郎（京都大学准教授）

11:25-12:05 講演 2 前野詩朗（岡山大学教授）

（昼食休憩）

13:15-14:15 基調講演 中川 一（京都大学防災研究所教授）

14:20-15:00 特別講演 福島雅紀（国土技術政策総合研究所 河川研究室長）

（休憩）

15:15-15:55 講演 3 前田健一（名古屋工業大学教授）

16:00-16:40 講演 4 島田友典（寒地土木研究所 研究員）

16:40-17:15 全体討論 破堤研究における水理学的課題について

司会：田中規夫（埼玉大学教授、副部会長）

17:15-17:25（閉会挨拶） 田中規夫

お問い合わせ先：土木学会 研究事業課（担当：林）

Tel: 03-3355-3559 Email: j-hayashi@jsce.or.jp

山上路生（基礎水理部会 幹事/京都大学） Email: michio.sanjou@water.kuciv.kyoto-u.ac.jp

複断面流れに関する数値解析 国際ベンチマークテスト

富山大学 都市デザイン学部

木村 一郎

目的

IAHRのWG主催として、複断面流れを題材に、各種数値解析モデルの比較をコンペ形式で実施。

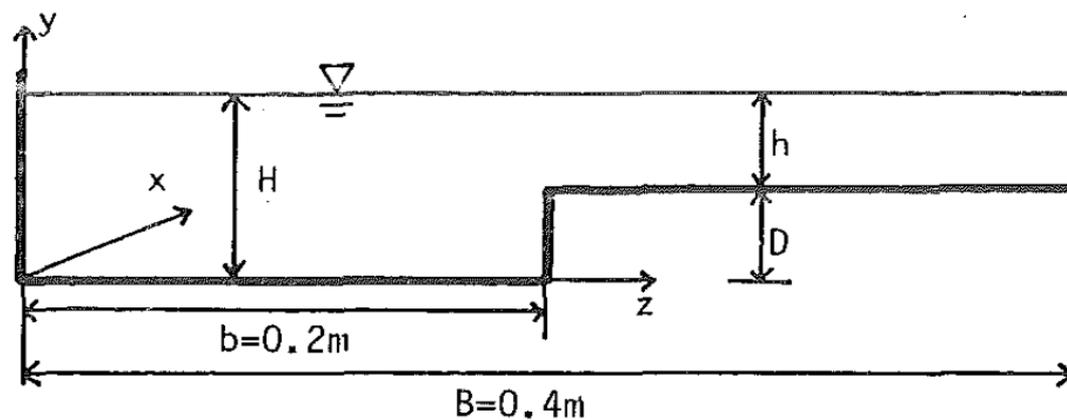
各モデルの再現性や長所短所を客観的に評価し、精度向上の機会とする。

特徴

- 富永・禰津（1991）データがWGにより選定。
（現在でも高品質，高信頼データとして国際的に認識。）
- 条件の異なる4ケースでの比較を実施．評価の客観性担保．
- 二次元，三次元モデルの双方対象．別個に順位決定．
- ランク付け基準を事前提示することで競技の透明性．
- 実験データを隠したブラインドステップとデータを明示し改良を促すチューニングステップの二段階。
（現在は，ブラインドステップが終了した状態）

条件

Tominaga & Nezu (1991) (高水敷高さとは粗度の異なる4ケース)



Case (1)	Flow depth of main channel H (mm) (2)	Flow depth of flood plain h (mm) (3)	Maximum velocity U_{max} (m/s) (4)	Friction velocity U_* (m/s) (5)	Mean bulk velocity U_m (m/s) (6)	Reynolds number R ($\times 10^4$) ($4U_m R/\nu$) (7)	Froude number F (U_m/\sqrt{gh}) (8)
S-1	80.3	60.3	0.409	0.0164	0.368	6.72	0.415
S-2	80.0	40.0	0.389	0.0164	0.349	5.45	0.393
S-3	80.5	20.5	0.358	0.0141	0.288	4.56	0.402
R-1	80.5	40.5	0.352	0.0161	0.277	3.97	0.312

Note: R = hydraulic radius; and ν = kinematic viscosity.

誤差評価基準

1. 次の2つの指標を計算

平均誤差(%)

$$MPE = \frac{1}{n} \sum E = \frac{1}{n} \sum \frac{V_{comp} - V_{meas}}{V_{meas}}$$

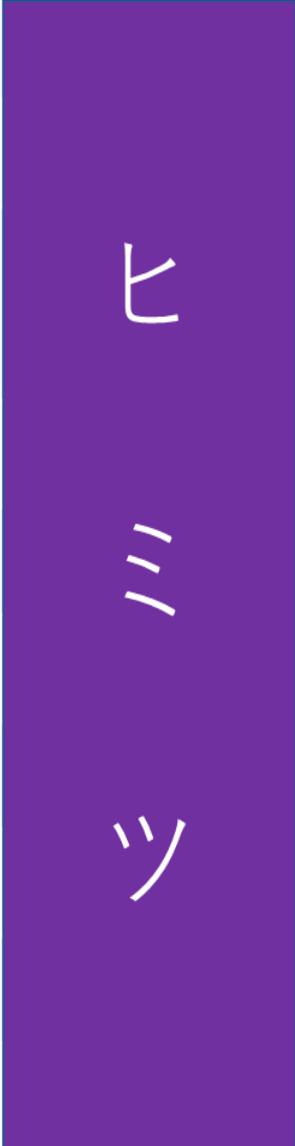
RMS誤差(%)

$$RMSE = \sqrt{\frac{1}{n} \sum E^2} = \sqrt{\frac{1}{n} \sum \left(\frac{V_{comp} - V_{meas}}{V_{meas}} \right)^2}$$

2. 次の表からランクAAA（最高）-EEE（最低）を計算。

$ MPE \rightarrow$	< 2%	< 5%	< 10%	< 25%	> 25%
RMSE ↓					
< 2%	AAA	AA	A	B	C
< 5%	AA	A	B	C	D
< 10%	A	B	C	D	E
< 25%	B	C	D	E	EE
> 25%	C	D	E	EE	EEE

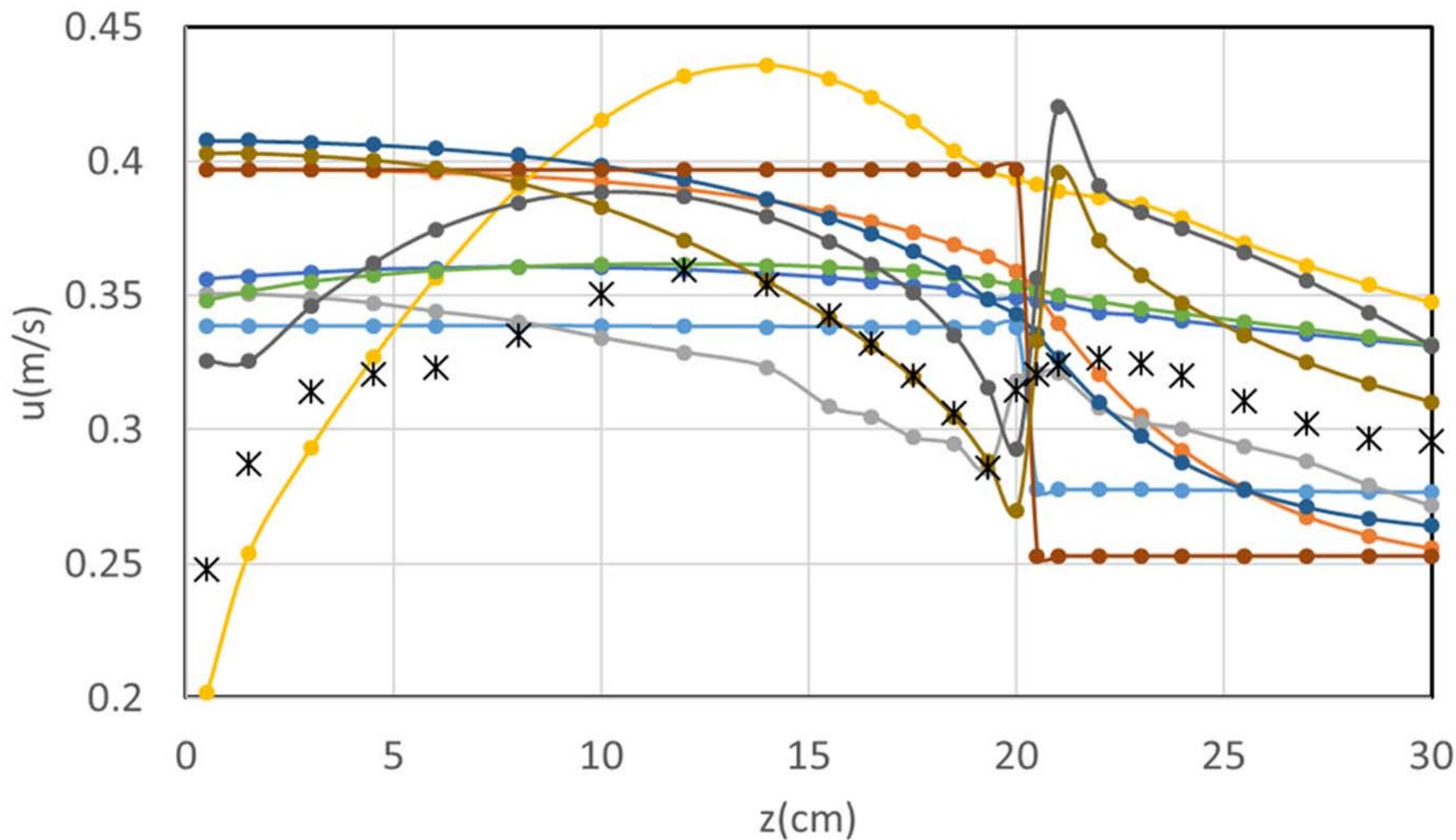
参加チーム(二次元) 7か国10チーム

	Model	by	Model aspects
	2D-A		RiverFlow2D
	2D-B		SWE M1 square mesh, with turbulence model
	2D-C		SWE M2 triangular unstructured mesh, no turbulence model
	2D-D		SWE-RANS
	2D-E		0-eq. model with constant eddy vis.
	2D-F		Telemac 2D
	2D-G		Nays2DH on iRIC 0-equation model
	2D-H		BASEMENT v3
	2D-I		original k-e, with side wall model
	2D-J		updated k-e, no side wall model

参加チーム(三次元) 3か国4チーム

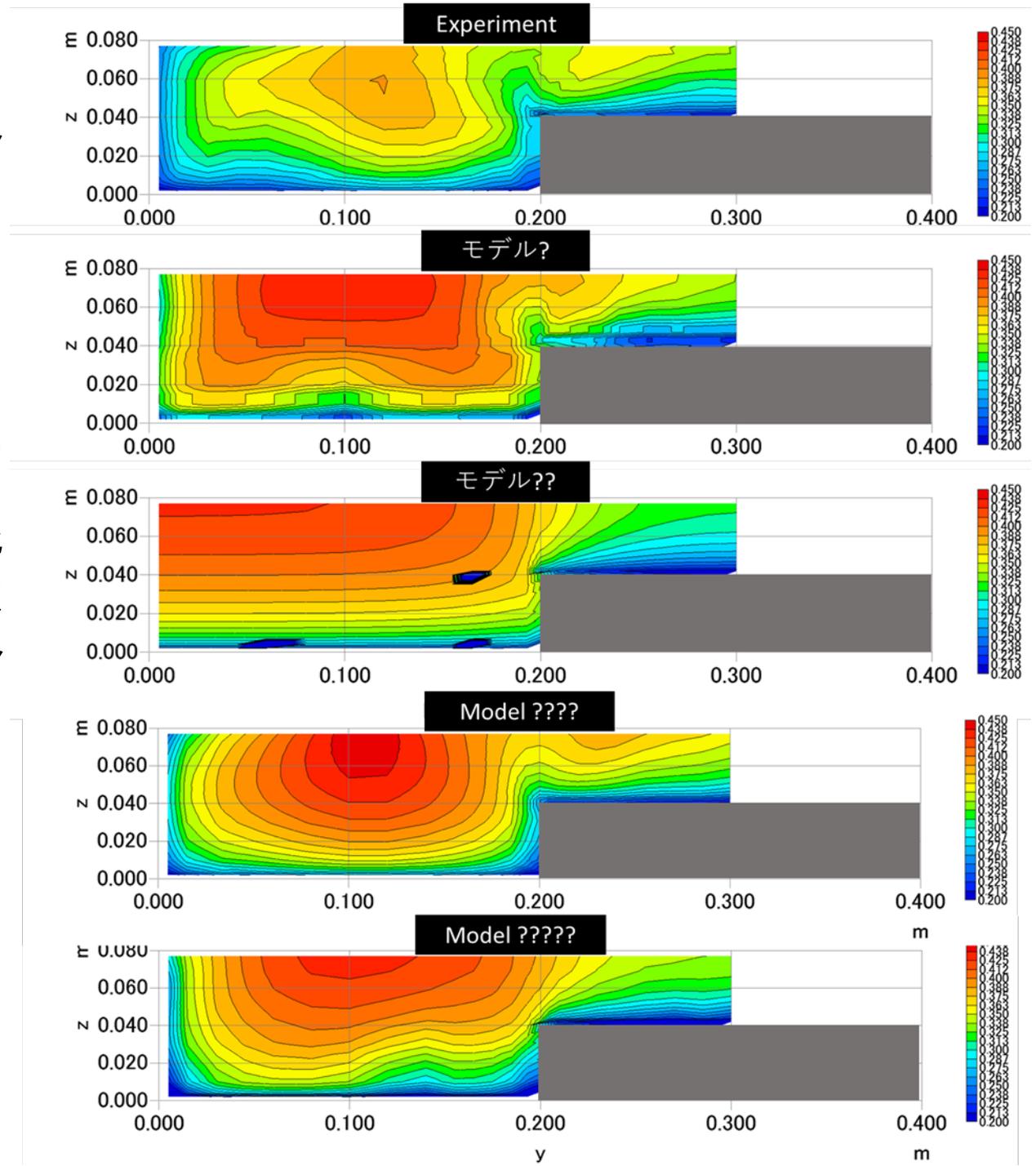
	Name	model	Turbulence model	scheme
	Model 3D-A	Ansys Fluent 14.0		
	Model 3D-B	SSIIM2		
	Model 3D-C	iRIC		
	Model 3D-D	OpenFOAM		

二次元結果の一例 (横断方向流速分布比較 Case S2 10models)



三次元結果 の一例

横断面内主 流方向流速 分布の比較



モデルの順位(1st blind step)

二次元モデルの場合

		1位	1位	3位	4位	4位	4位	7位	7位	7位	7位
S1	RANK	EE	E	E	E	EE	E	E	E	E	E
S2	RANK	B	B	E	E	E	E	E	E	E	E
S3	RANK	E	E	E	C	D	C	EE	E	E	D
R1	RANK	D	C	E	B	C	B	D	C	B	B
total	RANK	B	B	C	D	D	D	E	E	E	E



Winners of the
1st blind step!



基礎水理部会ワーキング・グループ

- 流木力学に関するWG（代表：木村 一郎）
- 流砂・河床変動に関する若手WG（代表：音田 慎一郎）
- 生態水理に関するWG（代表：田中 規夫）
- 河川構造物等に作用する流体力と流れに関するWG
（代表：田中 規夫）
- 数値解析支援ツールに関するWG（代表：井上 卓也）

流木力学に関するWG

富山大学 木村一郎

WGメンバーで申請した科研が採択され、5月20日（水）にこれに関するキックオフミーティング（オンライン）を実施した。

基盤研究B（R2-R4年度）

「ワンド型流木捕捉工創出のための設計指針と設計支援ツールの構築」

参加者：木村一郎（代表，富大），岡本隆明（分担，京大），溝口敦子（分担，名城大），加藤一夫（研究協力者，水工リサーチ），原田紹臣（研究協力者，三井共同コンサル），カン・テウン（研究協力者，京大）

その他：新型コロナ問題の状況を見ながらWGの見学会・勉強会を行う予定（場所は九州？）

流砂・河床変動に関する若手WG

(代表：京都大学 音田慎一郎)

第6回流砂・河床変動の若手勉強会

日時：2020年3月12日(木), 13日(金)

場所：早稲田大学

参加予定者：20名

※開催延期となりました。

3/12(木) 15:00-17:00

基調講演：これまでの流砂研究の流れと今後に残されている課題？
早稲田大学 理工学術院 教授 関根 正人

3/13(金)

10:00-11:00 流れと地形と植生との関係性 寒地土木研究所 主任研究員 大石 哲也

11:00-12:00 大井川における網状流路の変動特性 名城大学 教授 溝口 敦子

13:00-14:00 高精細地形情報の取得と解析：レーザ測量, SfM 多視点ステレオ写真測量とUAS 北海道大学 准教授 早川 裕一

14:00-15:00 ベッドフォーム形成条件の判別分析 京都大学 准教授 成瀬元

15:00-16:00 砂州を対象とした数値計算モデルの評価 北海道大学 准教授 岩崎理樹

<http://sediment.stars.ne.jp/blog/>

数値解析支援ツールに関するWG (代表：寒地土研 井上卓也) 2020年度の講習会

コロナにより講習会は延期されており、今後、以下の日程で開催する予定です。
※コロナの影響が長引いた場合、再延期の可能性もあります。

1. iRIC講習会 in プエルトリコ

時期：2020年8月24日の週で2日間程度

2. iRIC講習会 in 台湾

時期：2020年9月23日～25日

3. iRIC講習会 in 群馬（群馬大学・清水義彦先生）

2020年秋以降

環境水理部会報告

執行部 部会長: 矢野(九大) 副部会長: 竹林(京大)
幹事: 大槻(山梨大), 新谷(都立大)

WG活動:

- ・温暖化適応WG(入江)
- ・流砂・植生動的マネジメントWG(竹林)
- ・閉鎖性水域WG(新谷)
- ・「環境水理学」英訳(矢野)→全6章終了. 各章の執筆者に内容確認を依頼する予定.

研究集会2020 in久慈川:

1. 日時

現地見学会, 懇親会: 2020年7月2日(木)

研究発表会: 7月3日(金)

→ 秋以降に延期

2. 開催場所

現地見学会: 久慈川流域

懇親会・研究発表会: 水戸市内

部会:

年次講演会開催の場合は名工大で, 内場合はWEB会議

温暖化適応の環境水理学的視点からの探求WG

[適応WG]

設置目的

流域圏の水環境に関連する適応策の検討や適応策(緩和策も含む)を適用した場合の水環境への影響評価などに関して、情報共有、課題抽出、研究プロジェクトの立ち上げなどを目的として活動する。

メンバー

宮本(芝工大), 矢島(島根大), 矢野(九大), 赤松(山口大), 石塚(香川大), 井芹(西技), 梅田(東北大), 工藤(いであ), 白水(山口大), 新谷(首都大), 田井(九大), 津田(水資源機構), 中西(土研), 中山(神戸大), 鈴木(八千代), 田代(名大), 入江(阪大・主査)
部会外 上原(バシコン), 對馬(土研), 渡部(東大)

2019年度活動報告

11/3 WGの開催 d4PDFの活用について
研究申請

2020年度活動計画

- ・秋の環境水理部会年會に合わせたWGの開催（霞ヶ浦環境科学セを検討）
- ・WG打ち合わせ（web會議）昨年度研究申請を踏まえたプロジェクトの計画

閉鎖性水域WG

WG主査 新谷哲也（都立大学）

2019年度活動報告

- ・ 湖沼・貯水池の長期・広域水温調査（準備中）
- ・ 閉鎖性水域に関する研究レビュー（準備中）

2020年度活動計画

- ・ 2019年度からの継続課題の推進
- ・ オンライン研究会の開催

水害対策小委員会

水工学委員会における水害調査活動の円滑化および水害研究の更なる発展のための活動を行う小委員会

【活動内容】

- ・水害発生時に、水工学委員会が速やかに調査団を組織するためのサポート、調査団員公募のサポート、調査費獲得のためのサポート等をする。
- ・水害発生時に、他部門及び他学会との合同調査団の結成や河川管理者（行政機関）との窓口となる。
- ・水害発生時の水工学委員会としての対応・調査マニュアルを作成する。
- ・自然災害研究協議会と協力し、河川災害シンポジウムを企画・運営する。
- ・消防及びレスキューと情報交換を行い、水工学知見に基づいたレスキューマニュアルの改善やレスキュー技術の向上に努める。
- ・国土交通省及び地方自治体の水害対策部署と情報交換及び勉強会を行い、水防技術の向上に努める。
- ・水工学委員会に講演依頼がある水害に関する講演及び教育活動の窓口となる

2020年 度委員会 メンバー

委員	氏名	所属
<ul style="list-style-type: none"> ・小委員会委員長 ・幹事(各支部から1名) 	田中茂信 川村里実 川越清樹 二瓶泰雄 田代 喬 佐山 敬洋 岡田将治 赤松良久 矢野真一郎	京都大学 寒地土木研究所 福島大学 東京理科大学 名古屋大学 京都大学 高知工業高等専門学校 山口大学 九州大学
(幹事長兼務)		
<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省本省 ・国の研究所 	田中克直 宮本守 佐々木隆	国交省 水管理・国土保全局防災課災害対策室長 ICHARM 国総研 河川研究部 河川構造物管理研究官
・コンサルタント	高西 春二 中村謙一 中村明彦	パシフィックコンサルタンツ 建設技術研究所 アジア航測株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・財団 ・前水工学委員会委員長 ・監事 ・監事 	徳永良雄 清水 康行 堀智晴 竹林洋史	一般社団法人 国際建設技術協会 北海道大学 京都大学 京都大学
アドバイザー		
・各支部調査団組織責任者 (各支部から1名)	泉典洋 田中仁 清水義彦 冨永晃宏 角 哲也 中野晋 前野詩朗 秋山壽一郎 風間聡	北海道大学 東北大学 群馬大学 名古屋工業大学 京都大学 徳島大学 岡山大学 九州工業大学 東北大学
オブザーバー		
<ul style="list-style-type: none"> ・消防 ・レスキュー ・コンサルタント 	上村昇 木下修 佐藤孝洋 菊地博文 本橋健 真間修一 富田邦裕 松田寛志 野田敦夫 大石哲 神谷大介	消防庁国民保護・防災部 東京消防庁警防部特殊災害課 スペシャルレスキューサービスピャン(株) (株)ドーコン 日水コン 八千代エンジニアリング (株)建設環境研究所 日本工営株式会社 株式会社パスコ 神戸大学都市安全研究センター 琉球大学島嶼防災研究センター
・その他の災害・防災関連組織		

2019年度の活動

- 2019年7月： 2019年度第一回水害対策小委員会開催
2019年8月： 2019年8月佐賀豪雨災害調査団の結成・活動のサポート
2019年10月： 2019年10月令和元年台風19号豪雨災害調査団の結成・活動のサポート
2019年11月： 2019年度第二回水害対策小委員会開催
河川災害シンポジウムの実施（大宮ソニックシティ）

286名

参考： 2018年度（北海道大学） 214名

2017年度（岡山大学） 151名

配付資料に対して自然災害研究協議会から全額補助

- 2019年12月： 土木学会水工学委員会「令和元年台風19号豪雨災害調査団」速報会（葦浦工業大学） 156名

2020年度の活動予定

- ・ 国内・海外の水害調査団結成のサポート
- ・ 水害対策小委員会HPの充実
- ・ 消防連携WG
- ・ 災害写真データベースWG

2020年7月： 2020年度第一回小委員会開催

2020年11月： 河川災害に関するシンポジウムの実施
2020年度第二回小委員会開催

流量観測高度化小委員会活動予定

委員会構成

		委員	オブザーバ ー	アドバイ ザー
藤田一郎	神戸大			*
岡田将治	高知高専	*		
手計太一	富山県立大	*		
椿涼太	名古屋大	*		
萬矢敦啓	土木研究所	*		
橘田隆史	ハイドロシステム		*	

R2年度の主な活動予定

- (合同観測会は不開催)
- オブザーバー・委員を増員予定
- 流量観測Short-course @ IAHR-APD2020との連携←流動的
- 勉強会 2019/12頃予定
- 論文集の作成

河道管理研究小委員会報告

構成

委員長 田中規夫(埼玉大)、幹事長 戸田祐嗣(名古屋大)
委員 20名

R1年度の活動報告

• 第1回委員会(2019.6.11) 勉強会(1)

河道管理上の課題に関する情報提供(服部敦、福島雅紀)、 ショートレビュー(土砂: 溝口敦子、後藤岳久)、(植生:宮本仁志)、(環境:原田守啓)、(新技術:秋田麗子, 岡村誠司, 塚本洋祐)

• 第2回委員会(2019.9.18) 勉強会(2)

河川管理者の視点から見た河道管理の現状と課題(青野正志)、砂州研究に関する話題提供(竹林洋史)、植生を含めた河道の解析技術に関する話題提供(重枝未玲)

• 第3回委員会(2019.11.19) 勉強会(3)

河川財団の取り組みに関する話題提供(田中敬也)、水理解析に関する話題提供(内田龍彦)、土砂・植生に関する議論

R1年度の活動報告(つづき)

• 合同現地視察(2019.12.9) 川内川

九州地方整備局・川内川河川事務所の協力のもと、川内川における河道管理の状況、九州河道管理研究会での取り組み内容等について視察、意見交換を実施。

• 河道管理に関するワークショップ(2020.1.14)

WSタイトル:河道管理の最前線～現場と研究の接点を探る～

会場:土木学会講堂 参加者数:81名



合同現地視察(巨石による河道のキャッピング)

R2年度の活動計画

• 委員会,勉強会の実施

計3回程度を予定。フィージビリティ・スタディー対象河川の選定。研究技術開発テーマの洗い出し。

• フィージビリティ・スタディーの実施

次年度以降の共同研究実施に向けた予備調査。過去データ分析等。

河道管理研究小委員会 主催 ワークショップ
河道管理の最前線
～現場と研究の接点を探る～

日時: 2020年1月14日(火) 13:00~17:00
場所: 土木学会講堂(東京都新宿区四谷一丁目 外濠公園内)
参加費: 無料
主催: (社)土木学会 水工学委員会 河道管理研究小委員会

河道は大小様々な洪水や植生繁茂などを通して絶えず動的に変化します。そのため、河道管理には、時間軸と変動幅を意識した総合的な視野や高度な技術力が要求されます。また、河道管理における人的・予算的課題を克服するためには、新技術の積極的活用など、新たな研究・技術開発に大きな期待が高まっています。本ワークショップでは、河道管理について「現場と研究の接点を探る」という視点で話題提供し、課題解決に向けた今後の方向性について参加者の皆様の意見を交えて議論します。

プログラム

1. 13:00~13:15	挨拶	委員長 田中 規夫(埼玉大学)
	趣旨説明	幹事長 戸田 祐嗣(名古屋大学)
2. 13:15~15:15	話題提供	司会 後藤 岳久(中央大学)
	①河道管理の現状と課題	青野 正志(国土交通省)
	②河道管理における現場と研究をつなぐ視点	福島 雅紀(国土技術政策総合研究所)
	③河道管理における「土砂」に関する技術	原田 守啓(岐阜大学)
		竹林 洋史(京都大学)
	④河道管理における「植生」に関する技術	田中 規夫(埼玉大学)
		宮本 仁志(芝浦工業大学)
	⑤河道管理における「新技術」の動向	秋田 麗子(日本工営)
		岡村 誠司(いであ)
		塚本 洋祐(建設技術研究所)
3. 15:30~17:00	総合討議	司会 戸田 祐嗣(名古屋大学)

※お申し込み:
土木学会のホームページより12月26日までにお申し込みください。
なお、定員(80名)になり次第、受付を終了させていただきます。
申し込みいただいた方に事前アンケートをお送りしますのでご協力ください。
※お問い合わせメールアドレス: kadoukanri@jsoe.or.jp

■IAHR-APD 2020 札幌開催について（新型コロナ対応）

【開催日程】

2020年9月14日～（従来予定のとおり）

【開催方法】

- ・Webでのオンライン開催とする
- ・「Opening、Keynotes、Parallel Session、Poster Session」を開催
- ・Proceedings はWeb公開

【投稿料】

- ・6月後半～7月末（支払い期限） ※投稿料は 100 USD程度を予定

【参加（聴講のみ）】

- ・無料 ※ただし事前登録が必要

※細部は変更の可能性があります。追加情報は、随時HPやML等でお知らせします。

第1回 河川懇談会議事録

(文責：道奥)

日時：2019年11月6日(水) 14:00-15:00

場所：会議室 703

出席者(順不同・敬称略)：田中規夫，清水義彦，中北英一，渡辺康玄，戸田祐嗣，矢野真一郎，二瓶泰雄，中山恵介，平山大輔室長・木澤学係長(河川情報企画室)，道奥康治

1. 河川砂防技術研究開発制度の再編(2019年度より)

平山室長より同制度の再編(「地域課題分野」の「河川技術・流域管理」分野への統合)と水災害多発時代を背景として国土交通省が重点化している河川技術開発の概要が説明された。

2. 河川懇談会の今後について

河川懇談会と連動していた地域課題分科会の本委員会への統合を機会として今後の河川懇談会の方向を議論した。主な意見は以下の通りである。

- ・どの世代の技術者・研究者に視点をおくかが重要である→次世代の育成が重要である。
- ・懇談会内の活動(研究・技術開発の課題設定に関するギロなど)と懇談会外に開いた活動(Workshop, Symposium, Panel discussion など)に分けて双方を併行する。
- ・河川行政の情報を大学・高専・研究機関と深く共有することを目標として国交省出身の先生方を中心に進めた官学連携の取り組みが河川懇談会に結実している。活動に至った設立当初の理念に基づき、活動の深化と水平展開に取り組むべきである。
- ・官学民連携の活動軸は地方整備局との技術課題の共有である。研究・技術開発とともに、学側の構成員がかつてのリバーカウンセラーのような役割を担うこと、災害調査・復興における官学民連携などが考えられる。地方整備局を主軸におくことが効果的である。
- ・懇談会の役割としては、ニーズ(本省・地整)とシーズ(学側)とのマッチメイカー、研究技術情報の行政-学民間の共有における母体、研究者・技術者の人材バンクなどが考えられる。
- ・可及的課題もさることながら、河川懇談会において30年、50年後の河川のあり方を議論できるような中長期的視野が必要である。
- ・懇談会の活動を充実するために、座長の他に幹事長など執行部体制を整える必要がある。
- ・研究発表会を実施する場合には、例えば地方整備局研究発表会、国土技術研究発表会、河川砂防技術研究開発制度の終了課題などを題材とすることも考えられる。
- ・河川懇談会の際に懇親会も実施する。
- ・水工学講演会(富山)後に実施される見学会との共催あるいは併催、水シンポジウム前後、など、河川懇談会主催の会合の開催を検討する(全国大会共通セッションは困難?)。独自日程を設定し東京で実施することも考えられる。
- ・九州大学と九州地方整備局との包括協定は一つのモデルになり得る。
- ・応用生態工学会の研究集会などは実施例として参考になる。

2020年5月22日

水工学委員会
委員長 清水 義彦 様

公益社団法人 土木学会
調査研究部門
主査理事 風間 基樹

2019年度 調査研究委員会の活動度評価の結果
および2020年度調査研究費予算配分について（ご報告）

土木学会調査研究部門会議は、調査研究部門に所属する委員会の2019年度における活動度について、厳正に評価いたしました。

その結果、貴委員会の活動度の評価結果は下記のとおりとなりましたので、ご報告いたします。

なお、ご参考までに2016年度～2019年度の総合評価を併記いたしますとともに、「2019年度実績の委員会情報発信数」を添付いたします。

記

1. 2019年度実績の委員会活動度評価結果および2020年度予算配分額

年度	情報発信数			活動度評価 ランク	2020年度配分 額
	①行事参加者数	②出版物購読者数	合計（①+ ②）		
2019年度	4791.5人	2532人	7323.5人	A	986千円

- ・ 上記配分額には、調査研究拡充支援金を含みません。
- ・ 活動度評価がCランクとなった委員会は、研究企画委員会に対して活動内容、情報発信数が低迷した理由及び情報発信数以外で評価して欲しい点を別紙にて報告するものとする。

2. [参考] 活動度評価ランクと予算配分の関係

活動度評価 ランク	情報発信数	予算配分
A	2,500人以上	予算総額に応じて55万円+情報発信数に応じた金額。ただしAランクの情報発信数は2,500人として計算※。
B	500人以上 2,500人未満	
C	500人未満	一律55万円

※A, Bランクの委員会の予算配分方法

$$\text{予算配分額} = 55 \text{万円} + \text{情報発信数 (500人超分) に比例した金額} \\ = 55 \text{万円} + (S - 55 \text{万円} \times n) \times a / b$$

ここに、S：当該年度の調査研究委員会の総予算額（2020年度調査研究部門予算から新規制度等調査研究費（重点研究課題）ならびに研究企画委員会予算を除いた2,141.4万円）

a：当該委員会の情報発信数（Aランクは2,500人とする）－500人

b：全委員会のaの合計（2019年度：25,080人）

n：委員会数（現在29、研究企画委員会は含まず）

3. [参考] 2016年度～2019年度の貴委員会の総合評価

年度	総合評価
2016年度	A
2017年度	A
2018年度	A
2019年度	A

問合せ窓口：事務局 研究事業課長 工藤 (kudo@jsce.or.jp)

以上

千円

	行事参加者数	出版物購読者数	合計（人）	活動評価	配分額
2014年度	3566	1653	5219	A	1127
2015年度	3870	1569	5439	A	980
2016年度	4323	1163	5486	A	1056
2017年度	4481	1014	5495	A	1038
2018年度	4103	1036	5139	A	953
2019年度	4791.5	2532	7323.5	A	986

2019年度実績の委員会活動度個別調査書

委員会名：水工学委員会

(調査研究委員会用)

活動度評価項目	1) 研究発表会・講演会・講習会等(参加者数)			
	行事名	参加者数 (延べ人数)	開催日	
	1	流量観測技術ワークショップ	320	2019.4.17~20
	2	環境水理部会研究集会2019 in 岩木川	144	2019.6.20~22
	3	2019年度河川技術に関するシンポジウム	1206	2019.6.12~13
	4	第55回水工学に関する夏期研修会Aコース	198	2019.9.9~10
	5	シンポジウム「温暖化により激甚化する水災害に対抗するための適応策研究の推進に向けて」	110	2019.4.13
	6	水工学委員会「令和元年台風19号豪雨災害調査団」速報会	156	2019.12.6
	7	流量観測の高度化に関する勉強会	60	2019.12.11
	8	河道管理の最前線～現場と研究の接点を探る～	81	2020.1.14
9	基礎水理ワークショップin2019	7	2019.4.1	
10	流量観測の高度化に関する勉強会	82	2019.7.12	
11	第64回水工学講演会	1488	2019.11.4~6	
12	第32回アゲールシンポジウム	278	2019.11.4	
13	第64回水工学講演会特別講演	308	2019.11.5	
14	第24回水シンポジウム2019 in しが	167	2019.8.22~23	
15	平成31年度 河川災害に関するシンポジウム(第64回水工学講演会)	143	2019.11.4	
16	令和元年度第7回流域管理と地域計画の連携に関するワークショップ (主催・水工学委員会・土木計画学研究会)	33	2019.12.11	
17	日米沿岸生態系に関する講演会	12	2019.9.9	
	合計(A)	4,792		
2) 出版物(図書・印刷物)の販売(購入者数)				
出版物名	購入者数 (延べ人数)			
1	水理公式集例題集(昭和60年版)	20		
2	水理実験解説書 2015年版	725		
3	日本のかわと河川技術を知るー利根川ー	20		
4	環境水理学	116		
5	水理公式集 [2018年版]	1,621		
6	2019年度(第55回)水工学に関する夏期研修会講義集 Aコース	13		
7	土木学会論文集B1(水工学), Vol. 74, No. 4, 2019(水工学論文集第6)	17		
8				
	合計(B)	2,532		
総計(A+B)		7,324		

第65回水工学論文集 編集作業について(予定案) 協議1

開催日	会議	会場
2020年6月1日	論文投稿受付開始	
2020年6月30日	論文投稿受付締切	
2020年7月7日(火)(まで)	第一回編集小委員会(含:幹事会) (≡査読者の選定)	遠隔作業による
2020年7月27日(月)	第1回査読期限	(去年は上記から実質21日後でした)
2020年7月31日(金)～ 8月3日(月)	第二回編集小委員会(メール審議) (=主査・副査がとりまとめて判定)	
2020年8月24日(月)	修正原稿締切	(去年は上記から22日後でした)
2020年8月28日(金)	第三回編集小委員会(メール審議) (=主査・副査による最終判定)	
2020年9月1-2日	第二回編集小委員会幹事会 (=プログラム編成)	遠隔作業を想定
2020年9月上記の後	最終原稿締切	
2020年11月4-6日	第65回水工学講演会	富山市?

前述のスケジュールに絡む細かなこと

- ・まず、7/1, 2に、こちらで皆さんに何とか依頼できる形といたします。
- ・7/3(金)に各分野の委員兼幹事の皆さんに、たとえば水文なら水文の論文一式をdropbox等に収納して、お渡しする予定です。
委員兼幹事の皆さんで手分けしていただいて、7/3-7/6に、各論文について主査・副査(=第一査読者・第二査読者)を割り振ってください。
- ・7/6午後以降あたりから、幹事以外も含めた全委員(どうしてもお忙しい方の分は、幹事が代行ください)に、第三査読者を入力していただきます。
調整の後に、各分野から鼎まで、論文・第一～第三査読者のエクセルを送っていただくこととなります。(7/7夜までを想定)
- ・このように、とくに7/3-7ぐらいにおいて、少なくともときどきメールをチェックして、どこかの空き時間で作業ができるように、心づもりいただけましたら幸いです。各分野の幹事の方々を中心に進めていただく部分が出て参りますが、よろしく願いいたします。

その2

- ・CDの作成と配布は、水工学講演会の本番より後になってで構わない(事前のCD作成と配布を諦める)ことをお認めいただきたい。
- ・講演会期間とその直前直後の、あわせて数週間以内限定になるかもしれませんが、インターネット上で、論文集の閲覧を可能とする。(パスワード制。著者と水工学委員には、それぞれユーザー番号とパスワードを知らせる。一般読者は登録、許可制になろうかと思えます。)

前回の投稿数・採択数

投稿数: 315編 採択数: 247編

巻	年	投稿数	採択数	採択率
53	2009	343	255	74.3
54	2010	363	276	76.0
55	2011	379	283	74.7
56	2012	403	301	74.7
57	2013	386	303	78.5
58	2014	348	274	78.7
59	2015	317	250	78.9
60	2016	317	231	72.9
61	2017	326	245	75.2
62	2018	344	258	75.0
63	2018	318	257	80.8
64	2019	315	247	78.4

※ 加えて「通常号」からの講演: 14編

前回の分野別: **水災害・防災・減災分野**へ多くの投稿傾向

分野	査読キーワード	キーワード別		分野別		
		投稿数	採択件数	投稿数	採択件数	採択率
水文	水文気象プロセス	9	6	74	61	82.4%
	生態水文	1	1			
	気候変動とリスク評価	23	19			
	降水	14	12			
	流出解析	12	9			
	水文統計／水文情報	5	5			
	雪氷水文	3	3			
	地下水・浸透	7	6			
水災害・防災・減災	流域管理・洪水リスク管理	21	14	89	71	79.8%
	水災害・防災・減災	51	43			
	水害・氾濫の水理	17	14			
流砂	流域土砂動態	8	5	42	30	71.4%
	流砂	10	8			
	河床形態・流路形態	14	8			
	河床変動	10	9			
河川水理	管路・局所流	3	3	41	35	85.4%
	開水路の水理	15	11			
	密度流・噴流・拡散	1	1			
	水理現象の数値解析	10	8			
	流体力・流体振動・波動	2	2			
	観測技術	10	10			
河川環境	河道・流域の環境・環境評価	11	10	46	32	69.6%
	流域の流出負荷・河川の水質	5	4			
	水生生物・魚道	22	11			
	河道の植生	6	6			
	河道の物理環境	2	1			
湖沼・ダム, 沿岸	湖沼・貯水池の水理と環境	10	6	23	18	78.3%
	沿岸・河口域の水理と環境	7	6			
	津波	6	6			
計		315	247	315	247	78.4%

アウトスタンディング・ディスカッション賞(案)

座長へ「強く推薦する」、「推薦する」、「該当なし」の評価を依頼

選考手順:

①「強く推薦する」または複数セッションから「推薦する」と名前が挙げ
がった方を抽出

⇒ 10名

②すでに3度受賞された方を除く.

⇒ 1名を除く

過去の受賞人数(60回:14名, 61回:12名, 62回:9名, 63回11名)

⇒ 第64回はこの9名を受賞者候補とする.

以上

第64回アウトスタンディング・ディスカッション賞

内田龍彦(3回目)

小槻峻司

吉川泰弘

青木宗之

井上卓也(2回目)

相馬一義(2回目)

堀智晴

山口里美

芳村圭(3回目)

当初案

第65回水工学講演会 開催計画

開催日時 2020年11月4日(水)、5日(木)、6日(金)

開催場所 富山県民会館 (<https://www.bunka-toyama.jp/kenminkaikan/>)

富山きときと空港から富山市役所前まで 直通バス25分
富山駅から徒歩10分



第1会場兼
シンポジウム会場



特別講演の候補者

➤ 飯田 肇氏

立山カルデラ砂防博物館学芸課長
雪氷学

2012年に日本初の現存する氷河を発見

➤ 張 勁(ZHANG, Jing)氏

富山大学大学院理工学研究部教授
化学海洋学, 環境地球化学
富山湾研究の第一人者

➤ 森 雅志氏

富山市長
富山市のまちづくり政策

その他

- 受付は第1会場前のロビーで実施する。
- 企業展示の実施はマストでしょうか？
- 運営には、富山県立大学の呉先生、富山大学の木村一郎先生にご協力いただく。
- 懇親会会場は今後の検討中
- 翌土曜日に見学会の企画を検討中。
- ホテル等、宿泊の斡旋はしない。

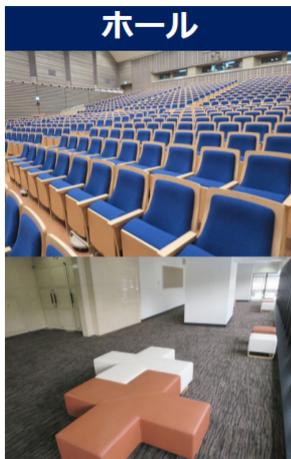
第65回水工学講演会

開催計画

部屋割と予算案

時間区分			1日目(11/4)	2日目(11/5)	3日目(11/6)	合計
部屋種別	部屋番号	定員(学校)	9時～22時	9時～22時	9時～22時	
事務局	509号室	42	19,900	19,900	19,900	59,700
会場1	ホール	1000	154,100	154,100	154,100	462,300
会場2	304号室	144	98,150	98,150	98,150	294,450
会場3	401号室	153	50,700	50,700	50,700	152,100
会場4	611号室	90	44,100	44,100	44,100	132,300
会場5	701号室	81	40,350	40,350	40,350	121,050
会場6	702号室	45	25,350	25,350	25,350	76,050
時間区分			部会(3時間)			
委員会①	501号室	24		5,850		5,850
委員会②	502号室	18		3,950		3,950
委員会③	503号室	24		5,100		5,100
委員会④	504号室	24		4,850		4,850
委員会⑤	508号室	24		5,850		5,850
合計						1,323,550
県後援(15%割引)						1,125,018
県共催(30%割引)						926,485
県観光振興室学会等補助金						-200,000
(県外1名につき1000円補助, 但し上限20万)						
富山市コンベンション開催事業補助金制度						-450,000
(3日間、最大399人が参加と仮定)						
県後援(15%割引)と仮定						475,018

全て予約済みです。



ホール

仕様		主な附属設備の料金 (円)		ご利用例・備考
舞台	間口 16m	張出舞台	5,340	楽屋 4 室 ・搬入用EV W×D×H 5.6×2.2×2.5m 最大積載量 3,100 kg ・搬入口 11 t 車2台乗入可
	奥行 11m	オーケストラピット	6,060	
	プロセ高 7m	反響板	4,960	
客席数	1,105席 (固定席)	フルコンサートピアノ (外国製)	11,840	
	1,057席 (張出舞台)	フルコンサートピアノ (日本製)	6,080	
その他	暗転幕飛切高18.5尺			

時間	9~12時	13~16時	17~22時	9~16時	13~22時	9~22時	超過及び時間外1時間の金額
料金(円)	平日 32,950	82,400	115,350	98,900	164,800	181,300	32,950
	土・日・祝 37,892	94,760	132,652	113,735	189,520	208,495	37,892



304号室

仕様		主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	144人	拡声装置 (マイク1本付)	2,540	会議、研修会、講習会
口の字	54人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)	730	
イス	210人	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	268㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	81坪	演台・司会台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	15×17.9×4.2m			
床	ジュウタン			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	40,900	49,100	57,250	65,450	73,600	81,800	85,050	88,350	91,600	94,900	98,150	13,650



401号室

仕様		主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	153人	拡声装置 (マイク1本付)	2,540	会議、研修会、講習会
口の字	84人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)	730	
イス	200人	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	228㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	69坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	8.5×26.8×2.5m			
床	カーペット			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	21,150	25,350	29,600	33,800	38,050	42,250	43,950	45,650	47,300	49,000	50,700	7,050

第4会場

611号室



仕様		主な附属設備の料金(円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	90人 (3人掛け)	拡声装置(マイク1本付)	2,540	会議、研修会、講習会
口の字	66人	ダイナミックマイク 1本(有線)	730	
イス	120人	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	185㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	56坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	8.5×21.8×2.5m			
床	タイルカーペット			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	18,400	22,050	25,750	29,400	33,100	36,750	38,200	39,700	41,150	42,650	44,100	6,150

第5会場

701号室



仕様		主な附属設備の料金(円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	81人 (3人掛け)	拡声装置(マイク1本付)	2,540	会議、研修会、講習会
口の字	60人	ダイナミックマイク 1本(有線)	730	
イス	—	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	169㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	51坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	8.5×19.8×2.5m			
床	タイルカーペット			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	16,850	20,200	23,550	26,950	30,300	33,650	35,000	36,350	37,650	39,000	40,350	5,600

第6会場

702号室



仕様		主な附属設備の料金(円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	45人 (3人掛け)	拡声装置(マイク1本付)	2,540	会議、研修会、講習会
口の字	42人	ダイナミックマイク 1本(有線)	730	
イス	—	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	106㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	32坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	8.5×12.5×2.5m			
床	タイルカーペット			

机を外し、椅子のみとする。

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	10,600	12,700	14,800	16,950	19,050	21,150	22,000	22,850	23,650	24,500	25,350	3,550

委員会

①



501号室

仕 様		主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	24人	拡声装置 (マイク1本付)	2,540	会議、講習会、文化教室
口の字	24人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)	730	
イス	—	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	63㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	19坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	6.5×9.6×2.5m			
床	ビータイル			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	5,850	7,000	8,200	9,350	10,550	11,700	12,150	12,650	13,100	13,600	14,050	1,950

委員会②



502号室

仕 様		主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	18人	拡声装置 (マイク1本付)	2,540	会議、講習会、文化教室
口の字	18人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)	730	
イス	—	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	42㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	13坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	6×7×2.5m			
床	ビータイル			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	3,950	4,750	5,500	6,300	7,050	7,850	8,150	8,450	8,800	9,100	9,400	1,300

委員会③



503号室

仕 様		主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	24人	拡声装置 (マイク1本付)	2,540	会議、講習会、文化教室
口の字	24人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)	730	
イス	—	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	54㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	16坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	6.5×8.3×2.5m			
床	ビータイル			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	5,100	6,100	7,100	8,150	9,150	10,150	10,550	10,950	11,350	11,750	12,150	1,700

委員会④



504号室

仕 様		主な附属設備の料金 (円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	24人	拡声装置 (マイク1本付)	2,540	会議、講習会、文化教室
口の字	24人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本 (有線)	730	
イス	—	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	52㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	16坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	6.5×8×2.5m			
床	ビータイル			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	4,850	5,800	6,750	7,750	8,700	9,650	10,050	10,450	10,800	11,200	11,600	1,600

委員会

⑤



508号室

仕様		主な附属設備の料金(円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	24人	拡声装置(マイク1本付)	2,540	会議、講習会、文化教室
口の字	24人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本(有線)	730	
イス	—	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	63㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	19坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	8.5×6.5×2.5m			
床	ビーターイル			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	5,850	7,000	8,200	9,350	10,550	11,700	12,150	12,650	13,100	13,600	14,050	1,950

事務局



509号室

仕様		主な附属設備の料金(円) 4時間		ご利用例・備考
学校式	42人	拡声装置(マイク1本付)	2,540	会議、講習会、文化教室
口の字	36人 (3人掛け)	ダイナミックマイク 1本(有線)	730	
イス	—	ワイヤレスマイク 1本	1,370	
面積	89㎡	ビデオプロジェクター(スクリーン付)	2,980	
	27坪	演台・ホワイトボード	無料	
W×D×H	6.5×13.7×2.5m			
床	ビーターイル			

時間	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	時間外1時間
料金(円)	8,300	9,950	11,600	13,300	14,950	16,600	17,250	17,900	18,600	19,250	19,900	2,750

2020年度・第65回水工学講演会 の開催方法について

- 1) 通常開催
- 2) オンライン開催
- 3) 通常開催とオンライン開催の併用

執行部案

2) のオンライン開催

- ・開催地と関係なくなるため、水工学オンラインWGを立ち上げ、担当する。
- ・翌年度以降に富山で開催

水工学講演会富山大会の 次年度繰り越しについて

富山県民会館の10月～12月の空き状況

2021年

10月4日（月）～14日（木）

12月7日（火）～14日（火）

2021年12月のカレンダー

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19

2021年（第66回），2022年（第67回） 水工学講演会の開催について

案1) 2021年 富山（10月or12月開催）
2022年 愛媛（これから予約）

案2) 2021年 愛媛 11/5-7, 予約済み
2022年 富山（これから予約）

水工学オンライン対応WG立上げについて

設立の意図

- 1) 水工学オンライン連続講演会開催のサポートを行う。
 - ・コロナ禍で制約の大きい研究交流活動の活性化.
 - ・オンライン講演会の開催ノウハウを蓄積.

- 2) 11月の水工学講演会をオンラインで対応できる準備を進める。
 - ・(実際にオンラインでやるかどうかは別だが)オンラインの準備はすべき.
 - ・通常の水工同様の6つの平行セッションを開催するには、ノウハウの蓄積が必要.

WGメンバー(6/4時点)

- ・溝口敦子先生(WGリーダー, 名城大学)
- ・大槻順朗先生(山梨大学)
- ・佐山敬洋先生(京大防災研)
- ・内田龍彦先生(広島大)
- ・入江政安先生(大阪大)
- ・二瓶泰雄(東京理科大)

水工学オンライン連続講演会(案)

- ・意図:前期の行事が軒並みできない中で,オンラインでも研究の最新情報の交換の場を設けたい.
- ・講演者:毎回1,2名.,頻度:月一回程度
優れた研究者の方々から,自身のこれまでの研究について,着想や動機,研究の進め方・考え方等についてご講演頂き,その後に質疑,意見交換等を含めたWEB形式の講演会から,中堅から若手の水工学研究者への刺激と研究力向上のための知や姿勢を得る.,徐々にいろいろな人(助教や博士学生等の若手)に話しをしてもらいたい.
- ・第一回:
講演者 福岡捷二先生(中央大),現在日程調整中(7月を予定)
- ・講演時の動画をアーカイブ化.
- ・方法:zoomとストリーミング(セキュリティ確保,参加者の扱いが容易)の併用

水シンポジウム2022inやまがたについて

				水工学講演会		水工学に関する夏期研修会			水シンポジウム				
水工	研修	シンポ											
回	回	回	年	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部		
53	44	13	2008			芝浦工大 東京 千葉						水シンポ 担当部会	
54	45	14	2009	北大	郡山		新潟						河川
55	46	15	2010			東大生研		神戸			福岡		環境水理
56	47	16	2011					京都	愛媛大	広島		基礎水理	
57	48	17	2012	札幌			名城大 岐阜					水文	
58	49	18	2013				名古屋	神戸大	高知			河川	
59	50	19	2014			早稲田大					北九州 長崎	環境水理	
60	51	20	2015		東北工大	東京		福井				基礎水理	
61	52	21	2016		秋田					山口	九州大	水文	
62	53	22	2017					大阪		岡山大	沖縄	河川	
63	54	23	2018	北大			静岡			山口		環境水理	
64	55	24	2019			埼玉大	名古屋	滋賀				基礎水理	
65			2020									延期	
66	56	25	2021			群馬	富山県大		高知			水文	
67	57	26	2022		山形				愛媛大			河川	
未水開シ 催ン 県ポ					岩手県 秋田県 青森県	茨城県 栃木県 埼玉県 神奈川県	三重県 長野県 石川県 山梨県	奈良県 和歌山県	徳島県 香川県	島根県 岡山県	佐賀県 大分県 宮崎県 鹿児島県		

		水工学講演会		水工学に関する夏期研修会			水シンポジウム				
水工	研修	シンポ	年	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部
回	回	回	年								
	1		1965								
	2		1966	札幌				京都			
	3		1967			東京					
	4		1968				名古屋				
	5		1969								福岡
	6		1970		仙台						
	7		1971							広島	
	8		1972			東京					
	9		1973					大阪			
	10		1974						徳島		
	11		1975	札幌							
	12		1976								福岡
	13		1977				長野				
	14		1978			東京					
	15		1979		仙台						
	16		1980					京都			
	17		1981	札幌							
	18		1982							岡山	
	19		1983								福岡
	20		1984				岐阜				
	21		1985			東京					
	22		1986		岩手						
	23		1987					神戸			
	24		1988	札幌							
	25		1989							鳥取	
	26		1990								福岡
	27		1991				金沢				
回	28		1992			東京					
38	29		1993		秋田	中央大					
39	30		1994			中央大		大阪			
40	31		1995	北見		中央大					
41	32	1	1996			中央大				山口	
42	33	2	1997					兵庫	徳島	鳥取	
43	34	3	1998		福島		名古屋	立命館大			
44	35	4	1999		日大	東京					北九州
45	36	5	2000			東工大					熊本
46	37	6	2001		山形	東京	名工大				
47	38	7	2002	札幌		早稲田大	富山	京都			
48	39	8	2003						愛媛	岡山	熊本大
49	40	9	2004	釧路		国土館大				広島	
50	41	10	2005					京都大	愛媛		
51	42	11	2006		宮城	法政大	岐阜	大阪			
52	43	12	2007				愛知			広島大	福岡

53	44	13	2008					芝浦工大									
								東京									
								千葉									
54	45	14	2009			北大	郡山			新潟							
55	46	15	2010						東大生研		神戸						福岡
56	47	16	2011								京都	愛媛大	広島				
57	48	17	2012			札幌					名城大						
											岐阜						
58	49	18	2013								名古屋	神戸大	高知				
59	50	19	2014						早稲田大								北九州
																	長崎
60	51	20	2015				東北工大	東京				福井					
61	52	21	2016				秋田								山口		九州大
62	53	22	2017									大阪			岡山大		沖縄
63	54	23	2018				北大					静岡			山口		
64	55	24	2019							埼玉大	名古屋	滋賀					
65			2020														
66	56	25	2021							群馬	富山県大				高知		
67	57	26	2022				山形								愛媛大		

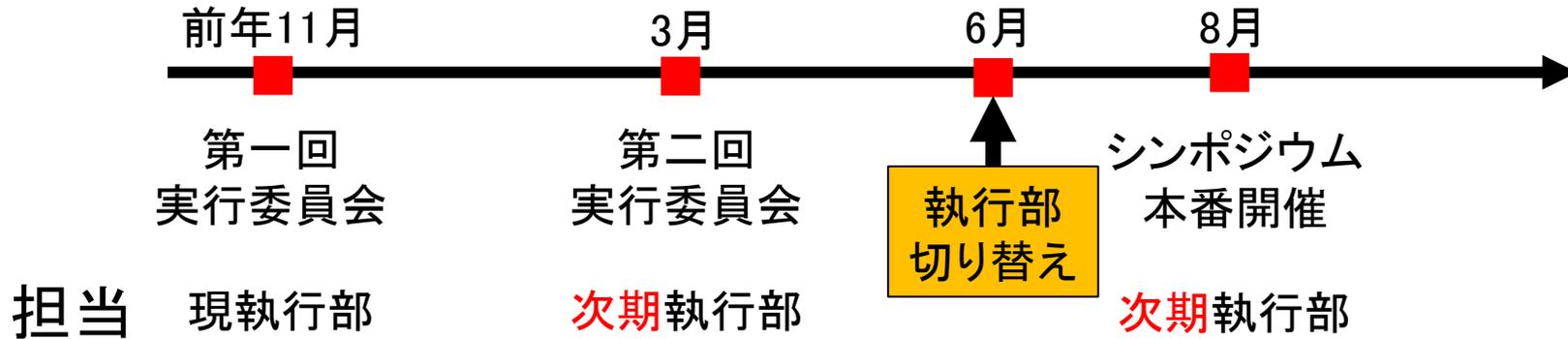
未 開 シ ン ポ 県 ボ	岩手県	茨城県	三重県	奈良県	徳島県	島根県	佐賀県
	秋田県	栃木県	長野県	和歌山県	香川県	岡山県	大分県
	青森県	埼玉県	石川県				宮崎県
	神奈川県	山梨県					鹿児島県

経緯

- ・東北大・風間先生に相談.
- ・3/23 山形県庁で打ち合わせ
(土木学会(清水先生, 風間先生, 二瓶), 山形県,
国交省山形河川国道事務所, 最上川フォーラム)
- ・当初, 2021年7月開催で進める.
- ・群馬延期に伴い, 2022年開催予定.

第25回水シンポジウム2021inぐんまの実施体制について

< 執行部切り替え時の通常の実施体制 >



< 延期後の水シンポ2021inぐんま >



水理公式集 例題集

土木学会編

昭和51年

水理委員会水理公式集小委員会 (50音順)

協議6

委員長 千秋 信一

委員 綾 日出教 石原安雄 荻原国宏 岸 力
木下武雄 合田良実 末石富太郎 土屋昭彦
服部昌太郎 室田 明 和田 明

水理公式集例題集編集幹事会 (50音順)

今岡正美 荻原国宏 角屋 睦 神田 徹
合田良実 首藤伸夫 須賀 堯三 千秋信一
玉井信行 中川博次 服部昌太郎 村上 健
和田 明

例題執筆者

- | | |
|---------------------|------------------|
| 第1編 荻原 国宏 (東洋大学) | 第4編 末石富太郎 (大阪大学) |
| 樋口 明生 (京都大学) | 今岡 正美 (山梨大学) |
| 首藤 伸夫 (中央大学) | 安中 徳二 (建設省) |
| 木下 武雄 (科学技術庁) | 柏谷 衛 (建設省) |
| 角屋 睦 (京都大学) | 杉本 昭典 (日本下水道事業団) |
| 第2編 玉井 信行 (東京大学) | 東 欽一郎 (日本下水道事業団) |
| 足立 昭平 (名古屋大学) | 村上 健 (建設省) |
| 木下 武雄 (前 出) | 第5編 光易 恒 (九州大学) |
| 芦田 和男 (京都大学) | 合田 良実 (運輸省) |
| 須賀 堯三 (建設省) | 服部昌太郎 (中央大学) |
| 第3編 安芸 周一 (電力中央研究所) | 堀川 清司 (東京大学) |
| 中川 博次 (京都大学) | 樫木 亨 (大阪大学) |
| 千秋 信一 (電力中央研究所) | 和田 明 (電力中央研究所) |

昭和60年

水理公式集 例題集

(昭和60年版)

水理委員会 水理公式集例題集編集小委員会 委員構成

委員長 玉井 信行 東京大学工学部土木工学科

委員 池田 駿介 埼玉大学工学部建設基礎工学科*

“ 大島 一哉 (株)建設技術研究所 第5部

“ 片野 尚明 (財)電力中央研究所土木研究所環境部

“ 酒井 哲郎 京都大学工学部土木工学科*

“ 清水 豊 (株)日本工営 技術研究所水理研究室

“ 竹内 邦良 山梨大学工学部環境整備工学科*

“ 谷本 勝利 運輸省港湾技術研究所水工部

“ 中村 栄一 建設省土木研究所下水道部下水道研究室

“ 本多 和彦 (株)INA 新土木研究所 河川第1部

“ (故)浅野 富夫 建設省土木研究所河川部河川研究室

土木学会

* 水理公式集改訂委員会幹事

水理公式集
例題プログラム集

平成13年版

部会長 中辻 啓二 (大阪大学)
主査 綾 史郎 (大阪工業大学)
池田 裕一 (宇都宮大学)
磯部 雅彦 (東京大学)
川崎 浩司 (大阪大学)
立川 康人 (京都大学防災研究所)
中川 一 (京都大学防災研究所)
船水 尚行 (北海道大学)

■第1編 水文編

河村 明 (九州大学, 例題1-11, 例題1-12)
葛葉 泰久 ((独) 防災科学技術研究所, 例題1-4, 1-5)
鈴木 正人 (岐阜工業高等専門学校, 例題1-13)
寶 馨 (京都大学防災研究所, 例題1-1, 1-2)
○ 立川 康人 (京都大学防災研究所, 例題1-9)
近森 秀高 (岡山大学, 例題1-8)
原田 守博 (名城大学, 例題1-6, 1-7)
森山 聡之 (崇城大学, 例題1-3)
陸 曼岐 (長岡技術科学大学, 例題1-10)

■第2編 河川編

池田 裕一 (宇都宮大学, 例題2-2, 2-7)
井上 和也 (京都大学防災研究所, 例題2-3)
故・長田 信寿 (京都大学, 例題2-8)
清水 康行 (北海道大学, 例題2-4, 2-6)
○ 中川 一 (京都大学防災研究所, 例題2-5)
細田 尚 (京都大学, 例題2-1, 2-9)

■第3編 ダム・発電編

○ 池田 裕一 (宇都宮大学, 例題3-1, 3-2)
坂井 伸一 ((財) 電力中央研究所, 例題3-3, 3-4)

■第4編 用排水・地下水編

海田 輝之 (岩手大学, 例題4-7)
浦瀬 太郎 (東京工業大学, 例題4-6)
神野 健二 (九州大学, 例題4-1, 4-2, 4-3)
○ 船水 尚行 (北海道大学, 例題4-4, 4-5)
古米 弘明 (東京大学, 例題4-8, 4-9)
松原 誠 (国土交通省国土技術政策総合研究所, 例題4-10)

■第5編 海岸・港湾編

青木 伸一 (豊橋技術科学大学, 例題5基礎-1)
○ 磯部 雅彦 (東京大学)
岡安 章夫 (東京水産大学, 例題5実用-3)
小林 智尚 (岐阜大学, 例題5基礎-4)
佐々木 淳 (東京大学, 例題5基礎-8)
下迫健一郎 ((独) 港湾空港技術研究所, 例題5実用-8)
高木 利光 ((株) アイ・エヌ・エー, 例題5実用-9)
武若 聡 (筑波大学, 例題5実用-5)
田中 仁 (東北大学, 例題5基礎-5)
出口 一郎 (大阪大学, 例題5基礎-6)
中野 晋 (徳島大学, 例題5実用-6)
橋本 典明 ((独) 港湾空港技術研究所, 例題5基礎-3)
畑田 佳男 (愛媛大学, 例題5実用-2)
間瀬 肇 (京都大学, 例題5実用-4)
水谷 法美 (名古屋大学, 例題5基礎-7)
余 錫平 (中国・北京清華大学, 例題5基礎-2)
横本 裕宗 (茨城大学, 例題5実用-1)

■第6編 水環境編

○ 綾 史郎 (大阪工業大学)
朝位 孝二 (山口大学, 例題6-1, 6-2)
朝枝 隆 (埼玉大学, 例題6-17)
天野 耕二 (立命館大学, 例題6-10)
有田 正光 (東京電機大学, 例題6-6, 6-7)
石塚 正秀 (和歌山大学, 例題6-9)
市木 敦之 (立命館大学, 例題6-14, 6-15)
牛島 省 (京都大学, 例題6-3, 6-4)
関根 雅彦 (山口大学, 例題6-8)
戸田 祐嗣 (東京工業大学, 例題6-13)
中井 正則 (東京電機大学, 例題6-6, 6-7)
中村 由行 ((独) 港湾空港技術研究所, 例題6-16)
藤井 滋穂 (京都大学, 例題6-11)
増田 貴則 (京都大学, 例題6-12)
宮本 仁志 (神戸大学, 例題6-5)

(50音順・敬称略)

○印は主査を示す

水理公式集例題集編集小委員会発足の提案

水理公式集2018年版の発刊

水理公式集例題集編集小委員会を発足させ、
どんな形式、内容にするか、
構想段階からの議論を始めたい。

編集小委員会委員長

泉 典洋 北海道大学教授

水工学委員会委員長選挙細則(2004年3月16日 委員会名変更)

土木学会水工学委員会委員長選挙細則

1998.6.24 制定

1.定足数

定足数は委員定数の2/3とする。ただし、委任状および代理出席者を含むものとする。投票は出席者(代理を含む)によって行う。

2.予備投票

委員長候補者数名を選出するため2名連記無記名投票を行う。その結果上位得票者から順次に得票数を加えて行き、その和が投票者数を越えるまでの得票者を選んで、第2回投票の対象となる候補者とする。

3.第2回投票

予備投票で選ばれた候補者につき単記無記名投票を行い、過半数を得るものがあればこれを次期委員長として推薦する。もし、過半数を得るものが無ければ、上位得票者から順次に得票数を加えて行き、その和が過半数を越えるまでの得票者を選んで、第3回投票の対象となる候補者とする。

4.第3回投票

第2回投票で選ばれた候補者につき単記無記名投票を行い、過半数を得たものを次期委員長として推薦する。第3回投票の結果、過半数を得るものがない場合は、得票数上位2名を候補者として第4回投票を行う。ただし、得票数第2位のものに得票同数のものがある場合には、年長者を採る。第4回投票による上位得票者を次期委員長として推薦する。

(付則) 選出された候補者は重大な理由がない限り、就任を断ることは出来ない。しかし、候補者の辞退があった場合には、**幹事会の協議により郵送による投票を行う。**

以上

<変更前>

(付則) 選出された候補者は重大な理由がない限り、就任を断ることは出来ない。しかし、候補者の辞退があった場合には、幹事会の協議により郵送による投票を行う。

<変更後>

(付則) 選出された候補者は重大な理由がない限り、就任を断ることは出来ない。しかし、候補者の辞退があった場合には、幹事会の協議により郵送による投票を行う。

また、社会情勢のより対面の会議ができない場合には、WEBによる投票を行う。

予算①: 2019年度行事別

収入					
担当	水工学委員会	水工学委員会	河川部会	環境水理部会	流量小委員会
イベント名	水工学講演会	夏期研修会	河川シンポ	研究集会	合同観測
参加費	¥0	¥2,506,000	¥4,036,500	¥162,000	¥350,000
掲載料(著者負担金)	¥8,645,000	¥0	¥1,548,000	¥0	¥0
テキスト代	¥536,800	¥39,000	¥6,000	¥0	¥0
広告料	¥1,082,800	¥0	181,440	¥0	¥0
その他			128,000		
小計	¥10,264,600	¥2,545,000	¥5,899,940	¥162,000	¥350,000
合計	¥19,221,540				
参加費(標準)	¥35,000	¥16,000	¥6,500	¥5,000	¥10,000
参加者数	¥247	74	¥603	34	35
支出					
担当	水工学委員会	水工学委員会	河川部会	環境水理部会	流量小委員会
イベント名	水工学講演会	夏期研修会	河川シンポ	研究集会	合同観測
アルバイト料	¥553,000	¥89,000	¥125,000		
旅費交通費	¥0	¥214,854	¥104,110	¥97,950	
備品消耗品費	¥77,150	¥512	¥9,049		
発送・通信費	¥40,210	¥31,414	¥58,233	¥432	
手数料					
会場費・貸借料	¥1,936,810	¥66,960	¥653,305		
会議費	¥243,589		¥110,355		
広告費	¥18,700				
報告書等製作費	¥767,800	¥410,400	¥1,674,324		
図書仕入費	21,743	26,676			
謝金・賞金		¥443,765	¥89,370		
国内日当					
システム費	¥588,500				
委託業務費					
事業諸経費	¥1,609,552	¥53,352	¥137,030		¥206,420
オーバーヘッド	¥3,079,380	¥763,500	¥1,769,982	¥48,600	¥105,000
小計	¥8,892,948	¥2,047,081	¥4,730,758	¥146,982	¥311,420
合計	¥16,129,189				
個別収支	¥1,371,652	¥497,919	¥1,169,182	¥15,018	¥38,580
合計	¥3,092,351				

予算内訳(2019年度)

委員会: 水工学委員会

委員会のみ

予算	953,000	調査研究費
	4,178,000	調査研究拡充支援金
予算合計	5,131,000	
支出合計	4,146,051	
残額	984,949	
	32,400	4月13日グローバル適応小委員会シンポ 会場費
	40,000	4月13日グローバル適応小委員会シンポ アルバイト代 矢野委員立替
	5,320	グローバル適応小委員会 ゴム印 矢野委員立替
	400,000	24回水シンポ 負担金
	345,018	6月6日、7日 親委員会 論文集編集小委員会
	52,755	6月6日、7日 親委員会 論文集編集小委員会
	376,040	6月6日、7日 親委員会 論文集編集小委員会
	53,680	6月6日、7日 親委員会 論文集編集小委員会
	38,680	6月6日、7日 親委員会 論文集編集小委員会
	27,000	6月20日 環境水理部会 会場費 大槻委員立替
	10,368	水シンポ ポスター分 矢野委員立替
	11,290	7月30日 河川懇談会会議 旅費
	9,500	7月30日 河川懇談会会議 旅費
	353,780	6月6日、7日 親委員会 論文集編集小委員会
	135,480	6月7日論文集編集小委員会
	11,468	7月11日 論文集編集小委員会打合せ(東京工業大学)
	3,564	水工学感謝状作成(1名分)
	1,000	資料印刷 林立替
	30,660	6月7日論文集編集小委員会
	4,500	6月7日論文集編集小委員会(キャンセル料)
	332,900	8月20日 論文集編集小委員会
	5,800	8月20日 論文集編集小委員会
	87,320	8月22日、23日 水シンポジウム
	32,400	8月22日、23日 水シンポジウム
	66,900	9月18日 河道管理小委員会
	27,414	9月3日 基礎水理部会 会場費 高松
	27,840	6月6日、7日 親委員会 論文集編集小委員会
	9,000	6月6日、7日 親委員会 論文集編集小委員会
	28,640	8月20日 論文集編集小委員会
	45,940	9月25日 水シンポジウムに関する打ち合わせ

委員会のみ

	1,360	10月7日 河道管理研究小委員会会議
	104,400	10月31日～11月1日 水工学支部大会 バスレンタル
	43,450	11月7日 台風19号水害現場視察 荒川・入間川流域の破堤 バスレンタル
	16,705	11月4日 第64回水工学講演会 河川災害に関するシンポジウム旅費と謝金
	32,342	11月4日 第64回水工学講演会 河川災害に関するシンポジウム旅費と謝金
	9,290	11月11日 水シンポジウム打合せ旅費
	41,954	11月19日 河道管理研究小委員会旅費(場所:河川財団)
	9,500	11月19日 河道管理研究小委員会旅費(場所:河川財団)
	86,784	10月31日 水文研究集会(発表者旅費支給)
	24,750	10月31日 水文研究集会(発表者旅費支給)
	35,090	11月11日、12日 水シンポジウム2020第一回実行委員会及び利根川上流部見学
	6,500	11月11日、12日 水シンポジウム2020第一回実行委員会及び利根川上流部見学
	13,500	11月11日、12日 水シンポジウム2020第一回実行委員会及び利根川上流部見学 レン
	29,780	12月11日 第9回流量高度化のための勉強会
	7,100	12月11日 第9回流量高度化のための勉強会
	33,440	12月11日 第7回流域管理と地域計画の連携に関するWS
	8,840	12月11日 第7回流域管理と地域計画の連携に関するWS
	400,000	水シンポぐんま負担金 (寄付金:10万円、委員会予算:40万円、合計50万円)
	376,200	オンラインシステム改修(査読システム等)
	58,992	3月17日 グローカル気候変動小委員会 霞が関打合せ
	13,200	10月27日 第2回基礎水理部会 会場費
	16,260	8月22日 水シンポジウムしが 第一分科会
	8,500	8月22日 水シンポジウムしが 第一分科会
	30,540	7月30日 水シンポジウムしが 第一分科会事前打合せ
	34,590	3月23日 水シンポジウム打合せ 山形
	8,327	3月23日 水シンポジウム打合せ 山形
	88,000	オンラインシステム改修 追加

予算②: 2020年度の支出予定

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
収入	調査研究費	¥1,202,000	¥1,215,000	¥1,127,000	¥680,000	¥1,056,000	¥1,038,000	¥953,000	¥986,000
	拡充支援金	¥1,581,000	¥1,898,000	¥1,981,000	¥1,612,000	¥1,372,000	¥3,570,000	¥4,178,000	¥3,092,351
	合計	¥2,783,000	¥3,113,000	¥3,108,000	¥2,292,000	¥2,428,000	¥4,608,000	¥5,131,000	¥4,078,351
支出	水シンポ								
	旅費	¥275,500	¥259,600	¥289,440	¥448,656	¥1,001,586	¥435,654	¥314,757	¥0
	他	¥9,450	¥4,761	¥200,000	¥200,000	¥200,000	¥200,000	¥823,868	¥0
	親委員会								
	旅費	¥2,312,871	¥1,550,360	¥2,428,595	¥1,328,050	¥819,340	¥954,045	¥1,670,761	¥0
	&編集小								
	他	¥122,530	¥58,529	¥64,120	¥265,754	¥112,384	¥625,517	¥604,244	¥0
	部会・小								
	旅費	¥54,325	¥110,450	¥46,656	¥18,360	¥189,842	¥402,396	¥439,237	?
	委員会							他	¥293,184
	その他	¥0	¥49,280	¥63,982	¥26,303	¥98,788	¥0	¥0	
	合計	¥2,774,676	¥2,032,980	¥3,092,793	¥2,287,123	¥2,421,940	¥2,617,612	¥4,146,051	

水工学委員会 歴代執行部

任期			委員長	副委員長	幹事長	編集幹事長
2001	-	2002	砂田 憲吾	小松 利光	清水 康行	
2003	-	2004	小松 利光	辻本 哲郎	田中 仁	
2005	-	2006	辻本 哲郎	山田 正	道奥 康治	
2007	-	2008	山田 正	中川 一	清水 義彦	
2009	-	2010	中川 一	寶 馨	関根 正人	田中 昌宏
2011	-	2012	寶 馨	道奥 康治	篠田 成郎	大石 哲
2013	-	2014	道奥 康治		立川 康人	知花 武佳
2015	-	2016	中北 英一		中山 恵介	戸田 祐嗣
2017	-	2018	清水 康行		竹林 洋史	宮本 仁志
2019	-	2020	清水 義彦		二瓶 泰雄	鼎 信次朗

2013年度以降，副委員長は不在

水工学委員会内規

(構成)

第3条 委員会の構成は次のとおりとする

- (1) 委員会は、委員50名以内を以て構成する。
- (2) 委員会に委員長1名、幹事長1名および幹事を置く。
なお、必要あるときは副委員長1名を置くことができる。
- (3) 委員会は事業を遂行するために必要あるときは、小委員会および部会を設け特定の事項について研究、調査等を行うことができる。
- (4) 幹事長、部会長および幹事は、幹事会を構成する。幹事会は、委員長を補佐し、委員会の事務を処理する。

(委員の任期および選出)

第4条 委員長・委員等の選出方法と任期は次のとおりとする。

- (1) 委員の任期は2年とする。
- (2) 委員会の運営上必要と認められるときは、任期満了委員を再任することができる。
- (3) 任期半ばで委員が交代するときは、後任委員の任期は前任者の任期を引き継ぐものとする。
- (4) 委員の選出は、細則による。
- (5) 委員長は前任の委員任期中の最終の水工学委員会において、委員の投票により選出する。なお、選挙は委員長選挙細則に基づいて行う。
- (6) 副委員長を置く場合には、委員長の指名による。
- (7) 幹事長は、委員長の指名による。

土木学会内の他の委員会の状況

部門	委員会名	副委員長	部門	委員会名	副委員長
I 部門	構造工学委員会	○(2名)	V 部門	コンクリート委員会	×
	鋼構造委員会	○(1名)		舗装工学委員会	??
	地震工学委員会	○(1名)	VI 部門	土木情報学委員会	○(1名)
	応用力学委員会	×		建設技術研究委員会	×
	複合構造委員会	○(1名)		建設用ロボット委員会	×
	木材工学委員会	○(1名)		建設マネジメント委員会	○(3名)
II 部門	水工学委員会	×		コンサルタント委員会	○(1名)
	海岸工学委員会	○(1名)		安全問題研究委員会	○(1名)
	海洋開発委員会	×	地下空間研究委員会	○(1名)	
III 部門	地盤工学委員会	○(1名)	VII 部門	環境工学委員会	×
	トンネル工学委員会	○(1名)		環境システム委員会	×
	岩盤力学委員会	○(2名)		地球環境委員会	○(1名)
IV 部門	土木計画学研究委員会	○(3名)		原子力土木委員会	○(2名)
	土木史委員会	○(1名)		エネルギー委員会	○(1名)
	景観・デザイン委員会	×			

- ✓ 副委員長有: 19, 不在・不明: 10
- ✓ 決め方は, 委員長の指名(推薦)が多数

副委員長について

<メリット>

- ・委員会運営の安定化，継続性の維持につながる。
- ・(副委員長＝次期委員長とすると)仕事の調整がし易い。
- ・委員長に万が一があった時，代理となり得る(危機管理対応としては必要)。

<デメリット>

- ・副委員長の決め方を変更する必要がある
(委員長による指名で公平性が担保されにくい)
- ・副委員長の仕事の役割が不明確(それほどない?)
- ・もし，副委員長を選挙で決める場合，委員長選挙もやるとなると
労力が増大
(※副委員長を次期委員長候補とした選挙のみを行う手はあり)